

嘉麻市教育委員会 点検・評価報告書

(令和元年度事業分)



令和 2 年 8 月

嘉麻市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条及び嘉麻市教育基本条例第7条の規定に基づき、令和元年度の教育委員会の点検及び評価を行いましたことを報告します。

嘉麻市教育委員会委員名簿

令和2年8月現在

職 名	氏 名	任 期
教育長職務代理者	豊 福 眸 子	平成30年7月 4日 ～ 令和4年7月 3日
委 員	佐 竹 正 利	平成29年7月 4日 ～ 令和3年7月 3日
委 員	辻 田 喜 美	平成28年8月29日 ～ 令和2年8月28日
委 員	犬 丸 隆 行	令和 元年7月 4日 ～ 令和5年7月 3日

目 次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	1
(2) 点検・評価の導入の目的	1
(3) 点検・評価する対象	1
(4) 点検・評価の方法	1
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	2
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	2
「第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度）」	
2. 教育委員会の取組	3
(1) 令和元年度教育委員会実施状況	3
(2) 令和元年度教育委員会の会議における主な議案	3
(3) 令和元年度教育委員会の会議における主な協議	4
(4) 令和元年度教育委員会の会議における主な報告	4
3. 各種学校調査の結果	6
4. 事業別評価結果	9
■主要施策1 少人数指導等による学力向上	13
■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	17
■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	35
■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	51
■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進	60
■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進	66
■主要施策7 市民文化の創造	70
5. 全体評価結果	77
《資料》	
・ 嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	83
・ 令和2年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿	85

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正及び嘉麻市教育基本条例の制定により、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体的教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があり、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価する対象

第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに目標達成度の観点から自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育委員や現場教員・事務局職員等ではない人で、教育に関して公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、議会、PTA連合会、社会教育委員の会議、公民館運営審議会、図書館協議会、織田廣喜美術館運営協議会、スポーツ推進委員、文化財保護審議会より推薦をいただいた方に依頼し、評価していただきました。

《点検・評価の流れ》

- ① 教育委員会事務局（担当課）においてその所管する事務事業等を自己評価
- ② 自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員を設置し、自己評価に対しての評価
- ③ 教育委員会は評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価
- ④ 議会へ報告
- ⑤ 議会報告後、速やかにホームページ等で一般公表

(5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに4段階【A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要】で評価し、評価の高い事業については引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、本市の教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例(抜粋)

(基本理念)

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行われなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、本市における教育振興のための施策に関し基本的な事項を定めた「第4次嘉麻市教育アクションプラン」を策定し、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野における7つの教育施策を柱として、その実現に向けた施策を推進しました。

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

この7つの施策に基づく事業を対象に、点検・評価を実施しました。

* 第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度 嘉麻市教育振興基本計画）は、以下のホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市教育アクションプラン」

<http://www.city.kama.lg.jp>・・・ 情報を探す→キーワードでさがす

キーワード「教育アクションプラン」と入力してください

2. 教育委員会の取組

(1) 令和元年度教育委員会実施状況

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。

また、嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき、定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

◆令和元年度教育委員会開催実績

- ・ 定例会 12回
- ・ 臨時会 2回 計 14回

◆令和元年度嘉麻市教育委員会学校訪問の実施状況

- ・ 定例学校訪問（2校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について、協議及び所要の指導・支援を行うことにより、学校力を向上させる取組です。

実施日：令和元年10月31日（木） 学校名：碓井小学校
令和元年11月1日（金） 学校名：稲築西小学校

(2) 令和元年度教育委員会の会議における主な議案

番号	議 案	開催日
1	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱について	4/1
2	嘉麻市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	4/1
3	嘉麻市教育委員会文書管理規則について	6/4
4	嘉麻市社会体育施設条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則について	6/4
5	嘉麻市学校評議員の委嘱について	7/2
6	嘉麻市学校関係者評価委員の委嘱について	7/2
7	嘉麻市教育委員会事務委任規則の一部を改正する規則について	7/2
8	令和2年度使用小学校用教科用図書及び中学校用教科用図書（道徳を除く）の採択について	8/23
9	碓井中学校区・稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画の策定について	8/23
10	嘉麻市教育委員会点検・評価報告（平成30年度事業分）について	8/23
11	嘉麻市立稲築西小学校通学対策費補助金交付規則等を廃止する規則について	9/3
12	稲築東中学校区小中一体型校施設整備基本計画について（諮問）	10/1

13	嘉麻市稲築住民センター条例施行規則を廃止する規則について	12/4
14	嘉麻市教育基本方針の策定について	2/4
15	嘉麻市サルビアパーク温水プール利用券規則について	2/4
16	嘉麻市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について	2/4
17	稲築東中学校区小中一体型校施設整備基本計画の策定について	2/17
18	嘉麻市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	3/10
19	嘉麻市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について	3/10
20	嘉麻市教育委員会事務決裁規則の一部を改正する規則について	3/10
21	嘉麻市教育委員会公印取扱規則の一部を改正する規則について	3/10
22	嘉麻市下山田小学校白馬ホール条例施行規則の一部を改正する規則について	3/10
23	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済掛金の徴収に関する規則について	3/25
24	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱について	3/25

(3) 令和元年度教育委員会の会議における主な協議

番号	協 議	開催日
1	碓井中学校区・稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画（案）について	7/2
2	（仮称）嘉麻市教育基本方針について	11/12
3	嘉麻市教育委員会障害者活躍推進計画（案）について	3/25

(4) 令和元年度教育委員会の会議における主な報告

番号	報 告	開催日
1	平成31年度臨時的任用教員研修会共催申請について	4/1
2	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	4/1
3	嘉麻市特別教員規程の一部を改正する訓令について	5/7
4	嘉麻市土曜未来塾支援連絡会議設置要綱の一部を改正する要綱について	5/7
5	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7
6	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申に関する臨時代理について	5/7
7	嘉麻市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7
8	嘉麻市立図書館協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7
9	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7
10	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7
11	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱に関する臨時代理について	5/7

12	嘉麻市立中学校における部活動の在り方に関する指針について	5/7
13	平成30年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/7
14	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	5/7
15	嘉麻市子ども読書活動推進計画策定委員会設置規程の一部を改正する訓令について	6/4
16	碓井中学校区・稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画（案）について	6/4
17	令和元年6月議会上程議案について	6/4
18	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	6/4
19	嘉麻市就学援助費交付認定規程の一部を改正する告示について	7/2
20	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	7/2
21	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	8/23
22	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申に関する臨時代理について	8/23
23	全国学力・学習状況調査の結果について	8/23
24	令和元年度中学校総合体育大会の結果について	8/23
25	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	8/23
26	嘉麻市立稲築西小学校通学対策費補助金交付規程等について	9/3
27	嘉麻市プロジェクトK事業推進補助金交付規程等の一部を改正する告示について	9/3
28	令和元年9月議会上程議案等について	9/3
29	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	9/3
30	嘉麻市学校跡地利活用会議設置要綱を廃止する要綱について	10/1
31	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	10/1
32	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	11/12
33	令和2年度嘉麻市立小・中学校の入学式・卒業証書授与式等の期日について	12/4
34	令和元年12月議会上程議案等について	12/4
35	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	12/4
36	稲築東中学校区小中一体型校施設整備基本計画（案）について	1/7
37	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	1/7
38	嘉麻市特別支援教員規程の一部を改正する訓令について	2/4
39	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	2/4
40	令和2年3月議会上程議案等について	2/17
41	嘉麻市新型コロナウイルス感染症対策について	3/10

42	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	3/10
43	嘉麻市地域学校協働活動推進員設置規程について	3/25
44	嘉麻市プロジェクトK事業推進補助金交付規程の一部を改正する告示について	3/25
45	嘉麻市新型コロナウイルス感染症対策について	3/25
46	令和2年度教職員の人事（内示）について	3/25

3. 各種学校調査の結果

まず、はじめに嘉麻市内各小中学校における、少人数指導特別教員、特別支援教育補助教員等の配置状況をまとめました。平成30年度と比べ、少人数指導特別教員の配置については1名減員、特別支援教育介助員、支援員は現状維持、特別支援教育補助教員は4名減員となりました。

今後も学習支援の環境の充実と、個に応じた適切な支援を図っていきます。

○小中学校（全13校）における、特別支援教育補助教員等の配置数

No.	点検・評価項目	内 容	H30	R1
1	少人数指導特別教員の配置	少人数授業の指導を行うために市費で雇用	22名	21名
2	特別支援学級介助員・特別支援学級支援員の配置	肢体不自由な児童生徒の介助や特別な支援を要する児童生徒の学習活動上の支援等を行うために市費で雇用	25名	25名
3	特別支援教育補助教員の配置	通常学級に在籍している特別な支援を要する児童生徒の学習支援を行うために市費で雇用	17名	13名

次に示すのは、各小中学校で行われた、教育課程実施状況及び教育課程編成状況調査結果（No.1～No.4）全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果（No.5～No.8）を集計し、学校の取組、児童生徒の学習状況等について、平成30年度から令和元年度を併記して比較したものです。

各小中学校の教育課程実施状況等の結果（No.1～No.4）からは、学習の場の設定と指導方法の工夫が積極的に図られていることが伺えます。具体的には、「基礎基本の定着を図る学習」や、学習した内容の未消化部分をなくすための「補充学習」が全ての学校において実施されています。また、「発展学習」にも1校を除く全ての学校が取組んでおり、身につけた基礎的な知識や技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育てる学習が実施できているものととらえます。さらに、「きめ細かな指導の実施」については、全ての学校で個の課題や習熟度に応じた分割授業や複数の教員が協働的に指導するティームティーチング授業が、ねらいに応じて展開されていることが読み取れます。

次に、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果（NO. 5～NO. 8）では、「食習慣の安定」について、小中学校とも上昇しています。自分の食生活を見つめ、改善しようとする食に関する指導や保護者啓発の成果が伺えます。しかし、「自己肯定感」については、小中学校とも低下し、小中学校とも引き続き自尊感情を高める取組が必要です。「家庭での学習習慣」は、各学校の「家庭学習のすすめ」をもとに取組の推進が図られています。平日に「読書を全くしない」児童生徒の割合は、小学校では改善が見られましたが、中学校では増加しています。このことについては、「読書の日」に係る指導を強化し、読書活動を推進していく必要があります。

以上のような調査結果から、学習支援環境充実のための人的配置の継続及び効果的な活用と、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を今後も強化していくことが肝要であると考えます。

○小学校 8校 *学校・児童質問紙から ()は令和元年度の国・県の平均値

No.	点検・評価項目	内 容	H30	R1
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	8校	8校
2	補充学習の指導	教科の学習時間に補充学習を行っている学校	8校	8校
3	発展学習の指導	教科の学習時間に発展学習を行っている学校	8校	8校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	8校	8校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	8校	8校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	8校	8校
5	食習慣の安定	朝食を毎日食べている児童 （国 95.3%、県 93.3%）	89.0%	91.3%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う児童 （国 81.2%、県 80.3%）	82.2%	77.3%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている児童 （国 97.1%、県 96.9%）※H30年度	95.9%	
8	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない児童 （国 18.7%、県 21.0%）	25.5%	23.1%

○中学校 5校

()は令和元年度の国・県の平均値

No.	点検・評価項目	内 容	H30	R1
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	4校	5校
2	補充学習の指導	教科の学習時間に補充学習を行っている学校	5校	5校
3	発展学習の指導	教科の学習時間に発展学習を行っている学校	4校	4校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	5校	5校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	5校	5校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	5校	5校
5	食習慣の安定	朝食を毎日食べている生徒 （国 93.1%、県 91.8%）	87.8%	88.0%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う生徒 （国 74.1%、県 73.2%）	76.3%	71.1%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている生徒 （国 91.6%、県 92.8%）※H30 年度	93.4%	
8	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない生徒 （国 34.8%、県 39.2%）	37.5%	48.4%

4. 事業別評価結果

■主要施策１ 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 確かな学力向上のための取組の推進	1	少人数指導推進事業	○			
	2	学力検証事業	○			
	3	嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業	○			
	4	研究指定校補助事業	○			

■主要施策２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 子どものニーズに応じる教育の充実	5	特別支援教育総合推進事業	○			
	6	補助教員配置事業	○			
(2) 社会の変化に対応する教育の充実	7	英語コミュニケーション能力の育成事業	○			
	8	情報教育推進事業	○			
	9	情報教育施設整備事業	○			
	10	人と自然が共存する環境教育の推進事業	○			
(3) 信頼される教員の確保と研修の充実	11	嘉麻市教育研究所研修推進事業	○			
(4) 安心して学べる学校づくりの推進	12	学校防犯体制整備事業	○			
	13	通学対策事業	○			
(5) 学校施設整備の推進	14	学校施設維持管理業務事業	○			
	15	大隈城山校維持管理事業	○			
	16	学校施設整備事業	○			
(6) 地域に開かれた学校づくりの推進	17	学校関係者評価事業	○			
	18	学校開放事務事業	○			
(7) 小中連携教育への取組	19	小中連携教育推進事業	○			
	20	小中連携・一貫教育研究事業		○		
(8) 教育の機会均等の促進	21	就学援助事業	○			
	22	奨学金事業		○		

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実	23	道徳教育推進事業	○			
	24	キャリア教育推進事業	○			
	25	ボランティア活動推進事業	○			
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	26	学校保健事業		○		
	27	学校給食運営事業	○			
	28	学校給食費算定及び収納事業	○			
(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進	29	読書活動推進事業		○		
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	30	適応指導教室(れすとぴあ)推進事業	○			
	31	教育相談推進事業	○			
	32	学校支援相談員配置事業	○			
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	33	地域教育資源・人材活用事業		○		
	34	学校と地域が連携して子どもを育む事業		○		
	35	家庭教育支援事業	○			
	36	青少年健全育成事業	○			
(6) 男女共同参画教育の推進	37	学校における男女共同参画推進事業	○			
	38	地域社会における男女共同参画推進事業		○		

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	39	社会教育関係団体等育成事業		○		
(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	40	社会教育施設整備事業		○		
	41	生涯学習推進事業		○		
	42	青少年体験活動推進事業	○			
	43	公立公民館・自治公民館連携強化推進事業		○		
	44	公民館活動活性化推進事業	○			
(3) 図書館の利用促進	45	図書館施設管理運営事業	○			
	46	読書活動推進事業	○			
	47	図書ボランティア養成及び活動支援事業	○			

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) スポーツによる地域の活性化	48	スポーツコミュニティ創造事業	○			
	49	スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業	○			
(2) スポーツ環境の整備	50	スポーツ環境創成事業		○		
	51	社会体育施設管理運営事業	○			
(3) 生涯スポーツの推進	52	プロジェクトK事業	○			
(4) 競技スポーツの推進	53	競技スポーツ推進事業	○			

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	54	人権・同和教育推進事業		○		
(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	55	人権・同和教育推進事業		○		
	56	人権・同和教育推進少年団体育成事業		○		
	57	人権・同和教育推進団体育成事業		○		

■重要課題7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 美術に関する創造的活動の推進	58	文化芸術活動推進事業	○			
	59	美術館運営管理事業	○			
	60	企画展事業		○		
	61	美術教育普及事業	○			
(2) 文化財の保護・継承・活用	62	郷土の歴史文化を守る事業		○		
	63	郷土の歴史文化を伝える事業	○			
	64	郷土の歴史文化拠点施設活用事業	○			

☆点検評価表の見方☆

事業名 (予算/決算)	[番号] 事業名 (課 : 係) (予算 : 千円 / 決算 : 千円)				
目 的	事業の目的について記載しています。				
事業内容	令和元年度に実施した事業について記載しています。				
令和元年度 の課題と 取組	【課題等】 令和元年度の課題としてあげた事項等を記載しています。 【課題等への取組み】 上記の課題について、どのような取組を行ったかを記載しています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性				
	事業の効果				
	事業の効率性				
	【自己評価の根拠】 自己評価に至った理由について記載しています。 また、評価の指標は次のとおりです。 A : 期待どおり B : 概ね期待どおり C : 課題あり D : 事業の見直し要				
今後の 方向性	この事業の目的を達成するための方向性について記載しています。				
令和2年度 の課題	令和2年度の課題について記載しています。				
【評価委員の意見】 点検評価委員会議でいただいた委員の意見を記載しています。					
教育委員会評価		今回		※	
		(前回)		(※)	

A : 期待どおり、B : 概ね期待どおり、C : 課題あり、D : 事業の見直し要

※点検評価委員の意見を踏まえ、教育委員会で評価しました。

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[1] 少人数指導推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：102,358千円 / 決算：99,908千円)				
目的	少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編制する等の指導形態をいう。）により、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	小学校13名、中学校8名の少人数指導特別教員を配置し、小中学校の少人数指導を推進しています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 主幹教諭研修会において、個に応じた指導の充実と児童生徒理解の深化を図るために、児童生徒の実態に応じた習熟度別指導の指導形態を提示し、形成的評価をもとにした習熟度別指導の推進を図ります。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、個に応じた指導の充実と児童生徒理解の深化を図るために、少人数での一斉授業に加え、単元終末段階における形成的評価をもとにした習熟度別指導の指導形態や指導方法を提示し、各学校の取組を交流する場を設定しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 平成31年度の全国学力・学習状況調査の目標値（小学校：100 中学校：97）に対して、小学校は97.5（－2.5）、中学校は96（－1）と目標値を達成することができませんでした。その要因は、小中学校とも基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる指導が不十分であること、思考力を発揮させ最善解を導き出す書く力を育て切れていないことが考えられます。 そのような中、基本的な知識及び技能を定着させるための個に応じたきめ細かな指導である習熟度別指導については、「よく取り組んだ」「だいたい取り組んだ」が小学校では7校中6校、中学校では5校中4校に増え、単元終末段階における形成的評価をもとにした習熟度別指導の推進を図ることができつつあります。				
今後の方向性	少人数指導により、個に応じたきめ細かな指導をさらに充実させます。学力の向上はもとより、児童生徒一人ひとりに向き合う時間を確保し、安心・安全な学習環境を提供します。				
令和2年度の課題	主幹教諭研修会において、個に応じた指導の充実を図るために、形成的評価をもとにした習熟度別指導の徹底及び充実を図ります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[2] 学力検証事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：7, 697千円 / 決算：7, 391千円)				
目的	児童生徒の実態を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取組の改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育の充実を図ります。				
事業内容	各種学力検査の結果を分析し、実効性のあるプランと各校のPDCAサイクルを確立します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 主幹教諭研修会において、重点的な指導の方向性を提示するとともに、学力向上の具体策を各学校の各学級まで浸透・徹底させるためのマネジメントについて演習・協議・指導助言を行います。また、学力向上の具体策に基づいた授業に改善していくよう指導助言を行います。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、重点取組の浸透・徹底のために、「嘉麻市学力向上全体構想」をもとに重点取組の内容や方法を説明し、学力向上に向けたマネジメントを共有する場や振り返りの場を設定しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小学校における標準学力検査NRTの結果は、5年連続して標準偏差値50を超え、3年連続51を上回っているものの、目標値（53）に対して、51.1と目標値を達成することはできませんでした。また、中学校における標準学力調査の目標値（49）に対して、48.8と惜しくも目標値を達成することはできませんでした。また、小学校アンダーアチーバーの目標値（5%以下）に対して、14%と目標値を達成することができませんでした。その要因は、小中学校とも授業改善へのPDCAサイクルが不十分であったことが考えられます。				
今後の方向性	各種調査結果をもとに、児童生徒の学力実態を分析するとともに課題を明らかにして、学校内の組織的な取組の改善を図ります。そのために、主幹教諭研修会において、重点的な指導の方向性を明確に提示し、学力向上の具体策がより具現化されるためのPDCAサイクルを推進します。				
令和2年度の課題	主幹教諭研修会において、重点取組の内容や方法を提示するとともに、学習評価からの授業改善を図ることができるよう指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 小学校アンダーアチーバーの目標値（5%以下）に対して、14%と結構高いと思いますので、アンダーアチーバー解消の取組が重要だと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[3] 嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：26,849千円 / 決算：24,885千円)				
目的	学校への指導及び支援体制をより強化し、学校の組織体制を確立するとともに、嘉麻市土曜未来塾において、基礎基本の学力の定着、家庭学習の習慣化を図り、学力の向上に努めます。				
事業内容	嘉麻市土曜未来塾を市内8箇所において、59人の学習サポーターを活用し、実施しました。また、学力向上推進員（教職員OB）が学校を訪問した際、土曜未来塾の広報及び成果の情報収集を行いました。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 嘉麻市土曜未来塾への参加状況について学校間の格差があるため、目的や価値を含めた事業広報を進めるとともに、今後も関係各課と連携し、生活困窮家庭の児童生徒を含め更なる参加を促します。また、ヒアリングを通して、学校外補習事業との関連についても指導していきます。 【課題等への取組】 嘉麻市土曜未来塾は、保護課等関係各課と連携し、生活困窮家庭の児童生徒の参加を促しました。また、学校外補習事業も11校とも計画的に推進していきましました。家庭へのアンケートを実施し、家庭学習の習慣化に向けた検討を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市土曜未来塾の参加人数（令和元年度は248人）は年々増え、保護者からの「自宅で勉強する習慣がついた」「勉強する時間が増えた」などのアンケート結果からも家庭学習の習慣化ができつつあります。しかし、家庭学習の目標時間達成率（小学校）90%の目標値に対して83.9%、家庭学習の目標時間達成率（中学校）80%の目標値に対して49%、土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒5%以下の目標値に対して7.8%と、目標値を達成することはできませんでした。その要因は、各学校の「家庭学習のすすめ」の指導が徹底できていないことや個に応じた課題提示ができていないと考えられます。 学校外補習事業については、学校の実態に応じた取組が推進されました。				
今後の方向性	嘉麻市土曜未来塾への参加状況について、まだまだ学校間の格差があるため、今後も更なる事業広報と成果の分析を進めるとともに、学校外補習学習事業との関連も含め、学校教育と放課後等の学習活動を連続して捉えた学力向上の方策を検討していきます。				
令和2年度の課題	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対象を小学校6年、中学校3年の児童生徒を中心に取組を進めます。その他の学年は、感染状況や小学校6年・中学校3年の参加状況をもとに参加を促します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[4] 研究指定校補助事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：1, 500千円 / 決算：1, 500千円)				
目的	研究指定事業を通して、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、一人ひとりの資質の向上に向けた研修等への参加支援体制の整備を図ります。				
事業内容	研究指定校を3ヶ年事業として、毎年中学校区単位で委嘱し、3年次に研究発表を行います。令和元年度は、3年目の嘉穂小、牛隈小、嘉穂中学校が研究成果を広める発表会を実施しました。研究2年目が、稲築西小、稲築中学校、1年目が碓井小、碓井中学校でした。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 嘉麻市の教育課題を解決していくために、校区としての課題や目標を明らかにし、小中9年間をつなぐ学びを目指します。特に、学習スタンダード、学習規律、家庭学習についての指導の在り方を共有しながら、組織的に取組を行うことができるよう指導・支援します。 【課題等への取組】 研究発表会の分科会においては、組織的な取組を推進するために、小中連携教育推進部会を設定しそれぞれの校区の課題や課題解決に向けた取組を共有する場を設定し、取組について指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 研究発表校数3校の目標値に対して、3校とも研究発表会を実施することができました。また、研究発表会において小中連携教育推進部会を設定したことで、各中学校区における小中連携の強化を図ることができました。特に嘉穂中学校区では、3ヶ年次の研究発表に向けて、校区の課題を明確にし、主体的な学びへの具現化を図るような話し合いを持ち、取組を進めることができました。				
今後の方向性	本事業は、学力向上等校区の課題解消を目指し、協働して組織的に児童生徒を教育する良い機会です。今後も、校区における小中9年間をつなぐ取組と小中の連携を強化し、組織的に研修を進めていく必要があります。				
令和2年度の課題	嘉麻市の教育課題を解決していくために、校区としての課題や目標を明らかにし、小中9年間をつなぐ学びを目指します。特に、小中共通の取組を明らかにさせ、組織的に推進できるよう指導助言を行います。				
【評価委員の意見】					
意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 子どものニーズに応じる教育の充実

事業名 (予算/決算)	[5] 特別支援教育総合推進事業（学校教育課：教務係・指導係） ※健康課：発達支援連携協議会事業費にて小学校分を予算化 (予算：3, 464千円 / 決算：3, 291千円)				
目的	保育所（園）・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育を総合的に推進することです。				
事業内容	巡回相談や個別の教育相談の実施等、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒を支援しました。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 切れ目のない支援が行われるように、就学相談窓口の機能化を図ります。また、個に応じた支援を行うことができるように、幼小中高の特別支援教育コーディネーターとの情報共有や各種関係機関内の連携を図るとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めます。 【課題等への取組】 切れ目のない支援を行うために、子育て支援課を中心に関係機関と連携し、就学相談窓口の機能化を図りました。また、「特別支援教育コーディネーター連絡会」を実施するとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 要請に対する巡回相談実施率100%の目標値、就学支援相談窓口周知のパンフレット配布実施の目標値、発達支援連携協議会による協議2回の目標値に対して、全て目標値を達成することができました。特に、小学校巡回相談を通して、適切な支援や指導に向かうことができました。また、特別支援教育コーディネーター連絡会を2回実施し、保小、小中、中高の情報共有を図ることができ、切れ目のない支援を行うための「つながり」をつくることができました。				
今後の方向性	特別支援を要する幼児・児童の早期発見・早期対応に努め、一貫した継続性のある支援に向けて巡回相談の充実や子育て支援課の就学相談窓口の機能化を図ります。また、子育て支援課及び関係機関との連携を密にし、合理的配慮の提供を充実させます。				
令和2年度の課題	切れ目のない個に応じた支援を行うことができるように、幼小中高の特別支援教育コーディネーターとの情報共有や各種関係機関内の連携を図るとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めます。また、専門性を高める研修も引き続き実施していきます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 子どものニーズに応じる教育の充実

事業名 (予算/決算)	[6] 補助教員配置事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：78,591千円 / 決算：75,468千円)				
目的	特別支援教育充実のための補助教員、介助員、支援員を配置し、一人ひとりのニーズに応じた教育条件の整備を図ります。				
事業内容	補助教員、介助員、特別支援学級支援員を配置し、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行いました。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 特別な支援を要する児童生徒に対して、個別の指導計画に基づいた合理的配慮が適切に提供されているか、効果的な運用ができているかを指導します。 【課題等への取組】 教育的ニーズに対応するため、補助教員、介助員、支援員を配置しました。支援の実際を充実させるために嘉麻市教育研究所主管で補助教員、介助員、支援員を対象に研修会を実施しました。合理的な配慮が適切に提供できるよう個別の指導計画に基づく支援の提供について指導助言を行ってきました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 特別支援教育支援員24名、介助員1名を配置し、目標値（基準に基づく配置数）を配置することができました。しかし、補助教員については、目標とする配置数14名のところ13名の配置となり、稲築西小学校において一年間、1名欠員の状態でした。 通常学級に在籍する支援を要する児童生徒や病気等により日常生活全般及び一部において見守りが必要な児童生徒の支援のために、補助教員等を配置基準に則して配置していく必要があるため、今後は欠員が生じないように、人材確保に努めていきます。				
今後の方向性	補助教員等の配置により、教育的ニーズに対応した支援ができています。このことは、特別な支援を必要としない児童生徒との良好な人間関係づくりにも役立っています。今後もインクルーシブ教育システムの構築に向け、適切な配置及び支援ができるように努めていきます。				
令和2年度の課題	特別な支援を要する児童生徒に対して、配置基準に基づいた補助教員等を適切に配置していきます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[7] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：24,959千円 / 決算：24,066千円)				
目的	言語や文化についての体験的理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を養い国際感覚を身に付けさせることです。				
事業内容	国際的な共通語として、英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めることを目的として、ALT（外国語指導助手）の活用による外国語活動の充実を図ります。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 令和2年度の完全実施に向けて、外国語活動や外国語科のカリキュラム作成、ALTの効果的な活用場面や方法についての研修を実施していきます。 【課題等への取組】 学校に対して学期末に行ったアンケートをもとに、契約先と授業改善に向けた協議を行いました。また、嘉麻市教育研究所主管研修において「今後の外国語教育の方向性」や「授業づくり」「カリキュラムづくり」についての研修を実施しました。また、稲築東小学校をモデル校として、オンライン英会話の実施に向けた取組みを推進しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ALT配置数5人の目標値に対して、ALTを各中学校区に1名配置（5人配置）し、小中学校における外国語教育の充実を図ることができました。ALTとのTT（チームティーチング）による授業により、楽しく学べる授業づくりができています。また、研修会実施回数1回の目標値に対して、研修を実施することができました。研修の効果もあり、英語力を育成する授業イメージを共有させることができ、授業改善を図るきっかけになりました。				
今後の方向性	児童生徒の英語コミュニケーション能力を育成するために、オンライン英会話の推進を図るとともに、カリキュラムづくりや教職員の指導力向上に取組み、ALTを効果的に活用した授業を充実させます。				
令和2年度の課題	オンライン英会話を活用した外国語活動や外国語科のカリキュラム作成、ALTの効果的な活用場面や方法についての研修を実施していきます。				
【評価委員の意見】 一人1台のタブレットが入ってくるということで、オンラインに限らずアプリを使った英会話や学習方法を検討していただければと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[8] 情報教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：2, 231千円 / 決算：2, 231千円)				
目的	児童生徒がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるようにするため、情報教育の充実を図ります。				
事業内容	嘉麻市教育研究所に情報教育推進ＩＣＴ支援員２名を配置し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 新学習指導要領におけるプログラミング教育に関する研修会が必要です。また情報教育推進協議会を活性化させるとともに、学校ホームページに対する情報教育推進ＩＣＴ支援員の支援の在り方を見直し、学校ホームページの更新が適切に行われるよう支援を行います。 【課題等への取組】 情報教育推進ＩＣＴ支援員１名を配置し、ＩＣＴを活用した授業改善、校務の電算化を推進しました。また、学校ホームページに関する教職員研修を通して、学校ホームページ更新のスキルアップ等の支援をしました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 目標達成にかかる指標は全て達成しています。教職員に向けた研修において、新学習指導要領の内容であるプログラミング教育や情報モラルに関する内容を含めたことで、情報活用能力の向上につながる授業改善の意識を高めることができました。また、学校ホームページ更新のスキルアップのための支援を必要に応じて行うことができました。				
今後の方向性	児童生徒の情報活用能力向上のための授業づくりにつながる研修の実施と支援が必要です。学校ホームページの適切な運営に向けた仕組みづくりを行い、市民に対する学校情報の公開をスムーズに行う必要があります。また、児童生徒１人１台タブレットＰＣの導入に連動し、研修の充実が必要です。				
令和２年度の課題	新学習指導要領における情報活用能力向上に関する研修会が必要です。情報教育推進ＩＣＴ支援員の授業支援の在り方を見直し、ＩＣＴを活用した授業が適切に行われるよう支援を行います。また情報教育推進協議会を活性化させ、今後の情報教育の在り方について、全小中学校で情報共有していく必要があります。				
【評価委員の意見】 情報活用能力向上に関する研修会はよいことですが、ネット、ＳＮＳ、ゲーム等の依存症が増えています。より一層の研修、勉強会等の充実を行ってください。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[9] 情報教育施設整備事業 (学校教育課：管理係) (予算：49,689千円 / 決算：49,189千円)				
目的	コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるように、情報教育を行うための情報機器の整備・維持管理を図ります。				
事業内容	市内小・中・高等学校（14校）のPC教室、校務用PCのリース及びPC教室、校務用PC、教育用PCの保守を行い、情報教育の充実を図ります。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 老朽化した学校情報機器のリプレイスについては、PC教室の情報機器を最優先して検討を行う必要があります。 【課題等への取組】 令和2年度のPC教室及び校務用のリプレイスに向けた準備を行いました。併せて、GIGAスクール構想に伴う超高速通信ネットワーク構築の調査・検討を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 令和元年12月以降は文科省が示したGIGAスクール構想に基づき、校内の情報機器について、総合的に整備するよう検討しました。				
今後の方向性	情報通信ネットワーク環境の整備により、これまでの情報教育からさらに高度な情報教育の実現が想定されます。今後、変化していく授業形態に対応すべく、教育現場や学校教育課とのコンセンサスを図りながら、教育ニーズに合った情報機器整備の実現を目指します。				
令和2年度の課題	GIGAスクール構想に伴う情報通信ネットワーク整備と併せて、サーバー、校務用PC及びPC教室のリプレイスを実施するため、円滑な事業遂行に向けスケジュール管理や学校との調整が必要です。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[10] 人と自然が共存する環境教育の推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算： — / 決算： —)				
目的	身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、人間活動と環境の関わりについて総合的な理解と認識を育成します。また、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技術や思考力、判断力を身に付け、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境に対し責任ある行動を取る能力を育成します。				
事業内容	郷土を愛する心を育てるため、小中学校で体験活動を重視した地元の良さに気づき、その環境に触れる教育を推進します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、地域の「ひと・もの・こと」を活かし、地域に働きかける授業づくりや地域の「ひと・もの・こと」をつなぐ「郷土を愛する」カリキュラムづくりを進めます。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、「郷土を愛する人材」を育成するためのカリキュラム・マネジメントや児童生徒が地域に愛着をもつための方法論について指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小中学校での環境教育における体験的活動実施の目標値に対して、総合的な学習や社会科、理科を中心としながら実施ができました。小中学校とも、各教科の年間指導計画に「地域連携」の枠を設け、地域の「ひと・もの・こと」を活用したカリキュラムづくりや授業実践が行われるようにしました。 また、環境課と連携し、市内小学生のポスターを看板にして設置する等の取組みを継続しました。				
今後の方向性	嘉麻市の自然環境に触れ、郷土に愛着を持ち、嘉麻市に定住する、または、一旦は嘉麻市を離れても将来戻ってくる人材を育成します。				
令和2年度の課題	身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、地域の「ひと・もの・こと」をつなぐ「郷土を愛する」カリキュラムづくりや学習展開モデルについて指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 郷土愛を育てる環境教育はすごく大切なことなので、子どもたちにしっかり根付くようにお願いしたいです。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3) 信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算/決算)	[1 1] 嘉麻市教育研究所研修推進事業 ※平成 31 年 4 月より教育センターから教育研究所へ名称変更 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：244千円 / 決算：199千円)				
目的	嘉麻市教育研究所を中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。				
事業内容	教職員研修、講師等対象研修、専門研修の実施、校内研修等における指導助言を行います。また、教職員の資質向上を目的とした教育論文の応募を推奨します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 情報教育研修会において、プログラミング教育の在り方や教材活用に関する内容を取り扱い、授業づくりにつながる研修を行います。 【課題等への取組】 情報教育研修会は、小学校の公開授業を小中学校参加者で参観し、プログラミングを取り入れた授業の在り方について協議を行い、小中学校のどちらにも学びとなる内容で実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市教育研究所に指導主事を配置し、教職員研修等の充実に努めました。目標達成にかかる指標は概ね達成していますが、特別支援教育に関する個人研究は実施していません。また、教職員のキャリアや学校からのニーズに応じて、指導助言も合わせて行いました。令和元年度は、学校訪問件数52回の指導主事派遣により、計画的・継続的な教職員の実践的指導力の向上に取り組むことができ、中学校においても授業改善に対する意識が高まっています。今後、若年教員の増加が予想されることから、指導力向上に向けた指導・支援が必要となってきます。				
今後の方向性	新学習指導要領の完全実施を控え、中学校においてはプログラミング教育の導入が急務となっています。指導計画や教材の整備を行うとともに教職員のコンピュータ活用能力の向上につながる支援、指導を行う必要があります。				
令和2年度の課題	新学習指導要領対応研修としてプログラミング教育研修会を実施し、児童生徒の情報活用能力向上につながるプログラミングの活用に重点を置いた授業改善を図る必要があります。また、教職員の教育実践研究の推進につながる教育論文作成の支援とともに、若年教員の指導力向上を目指した指導・支援が必要です。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[12] 学校防犯体制整備事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：9, 909千円 / 決算：9, 263千円)				
目的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取組みの充実を図ります。				
事業内容	学校支援専門員（警察OB）を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。スクールガードリーダーによる校内外の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図りました。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 生徒指導上の諸問題に対応する体制の点検を随時行い、迅速かつ適切な対応が維持できるようにします。また、不審者情報や防犯メールの配信、「通学路安全推進会議」等で地域の防犯意識を高め、児童生徒の安全確保に努めます。 学校においては、学校安全計画や危機管理マニュアルの共通理解を徹底させ、特に不審者の侵入を未然防止するよう指導します。また、学校評議員への防犯メール加入を進めていきます。 【課題等への取組】 学校支援専門員と学校との密な連携やスクールガードリーダーや地域ボランティアによる通学路での安全指導を行いました。また、不審者情報に対応し、青パト（青色回転灯装備車）を活用した地域の巡回を強化しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 生徒指導上の諸問題では、学校支援専門員と警察等関係機関とが連携することにより、非行・問題行動の未然防止及び迅速な対応ができました。また、スクールガードリーダーの配置、地域ボランティア、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備が進んでいます。不審者事案が発生した場合は、不審者情報や防犯メールの配信をするとともに学校支援専門員と警察が連携して、巡回等を強化し、深刻な事態に発展しないよう対応しています。				
今後の方向性	学校と学校支援専門員と警察等関係機関との連携強化を継続し、様々な生徒指導上の問題の対応を進めます。また、今後も「事件・事故の発生件数『0（ゼロ）』！」を目標に、定期的な通学路の安全点検、危険箇所の改善要望の継続、防犯メール等による不審者事案への早期対応を行い、児童生徒の登下校の安全確保に努めます。				
令和2年度の課題	生徒指導上の諸問題に対応する体制の点検を随時行い、迅速かつ適切な対応が維持できるようにします。また、不審者情報や防犯メールの配信、「通学路安全推進会議」等で地域の防犯意識を高め、児童生徒の安全確保に努めます。 学校においては、学校安全計画や危機管理マニュアルの共通理解を徹底させ、特に不審者の侵入を未然防止するよう指導します。また、学校評議員や未登録者（保護者）への防犯メール加入を進めていきます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[13] 通学対策事業（学校教育課：教務係） (予算：49,553千円 / 決算：44,310千円)				
目的	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減します。また、市内小・中学校通学路の安全を確保します。				
事業内容	遠距離通学をする児童生徒の通学費の負担を軽減するため、通学費の補助、スクールバスの運行を行っています。また、通学路の安全を確保するため、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、点検及び対策を講じています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 遠距離通学する児童生徒の安全確保と保護者の通学費の負担を軽減することや、通学路等の実情に応じたスクールバス運行の見直しを行う必要があります。通学路の安全確保については、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、前年度行った合同点検の内容を報告・協議・対策を講じる必要があります。 【課題等への取組】 バスの定期券の購入費用の補助、スクールバス運行による児童生徒の送迎及び通学路等について、学校、PTA、保護者及びバス運行委託業者と協議を行いました。嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、対策箇所の確認を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 稲築西小学校に通学する児童のうち、遠距離通学している児童のバス定期券の購入費用の補助を100%実施することができました。また、嘉穂中学校及び嘉穂小学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる児童生徒の送迎を行いました。				
今後の方向性	今後も遠距離通学をする児童生徒のバス定期券購入費用の補助を100%実施します。スクールバスについては、その運用方法について継続して協議して見直し等を行っていきます。また、通学路の安全確保について、定期的に点検、対策の実施というサイクルで行っていきます。				
令和2年度の課題	嘉穂小・中学校のスクールバス運行について、引き続き学校、PTA、保護者及びバス運行委託業者と協議を行い、実情に応じた見直し等を行う必要があります。通学路の安全確保については、通学路安全推進会議を実施し、令和2年度実施予定の合同点検の内容を報告・協議した後、その対策を講じる必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[14] 学校施設維持管理業務事業（学校教育課：管理係） (現年予算：474,808千円 / 決算：305,791千円) (繰越予算：340,976千円 / 決算：313,531千円)				
目的	すべての児童生徒が安心・安全な環境において、生活（学習）ができるよう、小中学校の補修、修繕、草刈等環境整備を実施し、施設維持の管理を行います。				
事業内容	・市内小中学校13校（小学校8校、中学校5校）の施設整備及び維持管理 ・施設維持管理業務委託（草刈、清掃、樹木剪定、浄化槽維持管理等）				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 安心・安全な教育環境を維持するため、緊急性を要するものから施設の整備を行います。また、昨年度よりの繰越事業として熊ヶ畑小学校の大規模改造工事及び災害復旧工事を実施します。 【課題等への取組】 老朽化した熊ヶ畑小学校の大規模改造工事及び災害復旧工事を実施し、児童生徒の教育環境の改善に努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 児童、生徒の安全性を確保するため、緊急性を要するものから随時修繕工事等の対応を行いました。また、老朽化した施設の改修工事及びその他の施設管理委託業務においても、快適な施設管理の維持のため適正な予算執行を行いました。				
今後の方向性	引き続き、安心・安全な環境整備及び維持管理を行っていきます。また、今後はトイレ等の改修を計画的に行うとともに、老朽化した施設については、修繕計画に応じた改修を行う必要があります。				
令和2年度の課題	上山田小学校他2校のトイレ改修工事、及び小中学校情報通信ネットワーク整備を実施し、児童生徒の教育環境の改善に努めます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[15] 大隈城山校維持管理事業（学校教育課：管理係） (予算：24,658千円 / 決算：21,403千円)				
目的	すべての生徒が安心・安全な環境において生活（学習）ができるよう、校舎等の適切な維持管理を行い、教育環境の整備を図ります。				
事業内容	大隈城山校の施設整備及び維持管理（建築年度：昭和61年度）				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 建築から30年が経過しており、経年劣化等による補修箇所があるため、引き続き年次計画的に施設の整備を図る必要があります。また、近年の猛暑に対応するため普通教室の空調機設置工事を行い、生徒の教育環境の改善に努めます。 【課題等への取組】 学校と連携を図りながら、適正な予算執行に努めました。また、普通教室への空調機器設置を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 長年の懸案だった普通教室に空調機器の設置行うことができました。併せて適切な学校施設の維持管理を行い、教育環境の改善に努めました。また、維持管理のための適切な予算執行を行いました。				
今後の方向性	生徒が安心・安全な環境で学習に臨めるよう、教育環境の整備を実施します。				
令和2年度の課題	近年の猛暑に対応するため、特別教室についても空調機の設置を行い、生徒の教育環境の改善に努めます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[16] 学校施設整備事業（学校教育課：教育企画係） (予算：9,058千円 / 決算：9,007千円)				
目的	学校施設の老朽化が進行してきており、計画的・効率的な施設整備が求められています。教育の質を維持・向上させていくために、全施設対象の長期的な整備計画の策定と施設整備を実施します。				
事業内容	・碓井、稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画（令和元年8月策定） ・稲築東中学校区小中一体型校施設整備協議会（令和元年10月から令和元年12月開催） ・稲築東中学校区小中一体型校施設整備基本計画（令和2年2月策定） ・嘉麻市教育基本方針（令和2年2月策定）				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 平成30年度に協議会を開催した2校区については、市民説明会（パブコメ）を実施し校区別の施設整備基本計画を策定した後、設計業務の実施に向けて準備を進めていきます。 全学校の既存施設の整備方法についても検討し、個別施設計画を策定する必要があります。 【課題等への取組】 ・碓井及び稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画（案）について市民説明会（パブコメ）を実施（各2回）し、令和元年8月に施設整備基本計画を策定しました。また、施設整備優先度の高かった稲築東中学校区についても、市民説明会（パブコメ）を実施し、令和2年2月に施設整備基本計画を策定しました。 ・教育の質を高め、学校への要求・期待に対し小・中学校一丸となって対応していくため、『小中一貫教育の導入及び小中一体型校舎においては義務教育学校へ移行』とした嘉麻市教育基本方針（案）について令和2年1月に市民説明会（パブコメ）を実施し、令和2年2月に教育基本方針を策定しました。 ・個別施設計画については、小中一体型施設整備計画との調整が必要なため、令和2年度中の作成に向け、作業を進めています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 本事業は、施設の老朽化が進行していくなかで、安全・安心な教育環境を整備するために重要な事業であり、合併特例債発行期限（2025年度）までに、効率的な維持管理が可能となる小中一体型校舎を整備するため、稲築東中学校区を含めた3中学校区において、施設整備基本計画の策定を完了しました。				
今後の方向性	3中学校区について施設整備基本計画の策定が完了したため、財源確保（予算措置）された校区から、速やかに事業を推進していきます。				
令和2年度の課題	速やかな事業着手と義務教育学校開校に向けた準備作業への着手				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		（前回）	（A）		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[17] 学校関係者評価事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：521千円 / 決算：141千円)				
目的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて、学校経営の改善と発展を目指します。				
事業内容	保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 学校関係者評価委員会での意見が教育指導計画書に反映できているか確認するとともに、改善策の確実な実行を指導していきます。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、学校関係者評価委員会での意見が教育指導計画書に反映できている具体を示したり、学校関係者評価を全校で実施し、学校ホームページ、学校だより、保護者会等で公表するよう校長会議等で指導したりするなど、PDCAサイクルが機能するようにしました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校関係者評価の実施・公表数13校の目標値に対して、すべての学校で自己評価に基づく、学校関係者評価の実施・公表・報告が確実に行われました。 しかし、評価結果の公表に終わることなく、学校関係者評価委員会での意見が反映され、次年度の改善策の策定と確実な実施につないでいく必要があります。				
今後の方向性	学校運営の改善と発展を目指し、保護者や地域住民等の連携強化のために、学校関係者評価を全校で実施し、評価結果をホームページ等で公表する必要があるとともに、評価をもとにした教育指導計画の改善が必要です。				
令和2年度の課題	学校関係者評価委員会での意見が教育指導計画書に反映し確実な実施につながっているか確認するとともに、改善策の確実な実行を指導していきます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[18] 学校開放事務事業（学校教育課：管理係） (予算：358千円 / 決算：358千円)				
目的	生涯学習社会における文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより、地域住民の社会体育の推進を図ります。				
事業内容	学校教育に支障のない範囲において、市内小中学校13校（小学校8校、中学校5校）の体育館及び運動場等の施設を開放します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 消費税及び地方消費税の変更に伴い、利用料金の見直しを行う必要があります。 【課題等への取組】 利用料金を見直しを行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 社会体育施設だけでは、団体の受け入れに限度があり、学校施設を開放することで、多くのスポーツ団体が生涯スポーツの機会を得ることができており、必要性、効果ともに高いと判断しています。また、少ない経費で事業運営ができているため効率性も高いと判断しています。 しかしながら、アクションプランの目標に定めていた「学校施設利用減免要綱の見直し」については、昨年度見直しに向けた検討に入る予定でしたが、検討に着手できませんでしたので、効率的な事業運営の観点から事業の効率性を B と判断しました。				
今後の方向性	引き続き学校教育に支障のない範囲で学校施設を開放し、地域住民の社会体育の推進に努めます。				
令和2年度の課題	新型コロナウイルス感染症対策により、当面の間、学校開放を停止しているため、今後学校を開放するにあたり的確な判断が求められます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組

事業名 (予算/決算)	[19] 小中連携教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：ー / 決算：ー)				
目的	義務教育9年間を通して、系統的、継続的な学習指導や生徒指導を行い、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むために、小中学校の校区型の小中連携事業を基本に推進し、小中学校すべての教職員による協働体制を整え、協働実践を行います。				
事業内容	小中連携教育等基本方針を作成し、必要に応じモデル校による実施を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 小中連携の目的を確認するとともに、各中学校区で授業交流や職員間の交流を実施する中で校区の取組みを具体化させ、継続して取組みを進めていくよう指導助言を行います。 【課題等への取組】 学力向上研修会において、学力向上に向け、小中連携した授業づくりの取組みを協議する場を設定したり、取組の推進を図る指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 授業交流の実施2回以上の目標値に対して4中学校区で、職員間の交流の実施2回以上の目標値に対して5中学校区で目標値を達成することができました。 また、学力向上研修会では、取り組みやすさや期待される効果を視点に小中連携した授業づくりの取組みと成果・取組指標を決めたことで、小中連携を意識した取組みを推進させることができました。また、授業交流や職員間の交流など、小中の連携を進めていくことができました。				
今後の方向性	研究指定校の発表を契機に中学校区毎に取組みを推進する組織の活性化を行い、児童生徒の実態交流や学力向上に関する取組みの協議、生徒指導の取組みの共有等をさらに進める必要があります。				
令和2年度の課題	小中連携教育や小中一貫教育の目的を確認するとともに、各中学校区で授業交流や職員間の交流を実施する中で校区の取組みを具体化させ、継続して取組みを進めていくよう指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組

事業名 (予算/決算)	[20] 小中連携・一貫教育研究事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：－ / 決算：－)				
目的	研究開発校や構造改革特区における小中一貫教育の取組みの成果を踏まえ、カリキュラム区分の弾力化など小中学校間の連携・接続を改善するための仕組みについて、種々の観点に配慮しつつ十分に研究していきます。また、小中学校間の教職員の人事交流や共同研究、小中連携した学力向上の取組み、生徒指導の連携などを図ります。				
事業内容	小中学校間の教職員の人事交流や共同研究を通して、小中連携を推進しています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 嘉麻市教職員研修会において、小中一体型校舎の施設整備計画や小中連携の取組みについて研修会を行います。また、先進地視察等を通して、小中連携・小中一貫教育の情報収集を行います。 【課題等への取組】 嘉麻市教職員研修会や市民説明会において、小中一体型校舎の施設整備計画や小中連携の取組みについて研修会を行いました。また、先進地視察を行い、小中連携・小中一貫教育の情報の収集を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 一貫教育に関する先進地視察実施の目標値に対して、3回（佐賀県多久市、広島県府中市、大阪府堺市）視察を実施することができました。また、嘉麻市の教育課題に適した連携・一貫教育を進めていくために、校区間連携に関する研修会を行うことができました。				
今後の方向性	小中連携教育や小中一貫教育への意識を高めるとともに、義務教育学校開校に向けた組織づくりが必要です。				
令和2年度の課題	義務教育学校開校に向け、教育総務課と連携し、教育課程の基本的な方針や組織づくりを行います。また、先進地視察等を通して、小中連携・小中一貫教育の情報収集を行います。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算/決算)	[21] 就学援助事業 (学校教育課:教務係) (予算:98,180千円 / 決算:89,178千円)				
目的	経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、必要な就学援助を行います。				
事業内容	経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を援助します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。 【課題等への取組】 適正な基準により、教育費の一部の援助を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 申請のあった該当児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を100%援助することができました。また、入学準備に必要な学用品費の一部を適正な時期(入学前の3月)に援助することができました。				
今後の方向性	今後も継続して、該当児童生徒への援助と本事業の広報等の情報発信による周知を行っていきます。また、実態に応じた援助方法について、必要に応じて検討します。				
令和2年度の課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた援助の基準について、必要に応じて見直しが必要です。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A:期待どおり、B:概ね期待どおり、C:課題あり、D:事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算/決算)	[22] 奨学金事業（学校教育課：教育総務係） (予算：19,803千円 / 決算：19,761千円)				
目的	嘉麻市独自の奨学金制度により、高等学校や大学等に進学するための奨学金を貸し付け、経済的理由による就学困難者の負担軽減を図ります。				
事業内容	嘉麻市奨学資金貸付及び返還に関する業務 (令和元年度貸与中の人数：40人) (令和元年度返還中の人数：214人)				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 現年度分の返還金徴収率向上を図るため、文書による督促及び催告を強化するとともに、早期に滞納整理に着手し、年度内の完納を目指します。また、新規貸付者については口座振替の原則化を徹底し、徴収業務の効率化を図ります。 【課題等への取組】 滞納者に督促状を年2回送付し、個別に納付相談等を行い、徴収率の向上に努めました。また、口座振替の推進についても、継続して行っています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 奨学金制度について、市広報誌とホームページに掲載し、市内中学校、近隣の高等学校にも周知を行い、新規に11名の貸付を行いました。目標値の20名を下回りました。 返還事務については、滞納者に対し9月と1月にそれぞれ53件の督促状を送付しました。徴収率は、平成31年度におきましては現年度86.4%で、前年度と比較すると、0.7%上昇しましたが、目標値の91%を下回る結果となりました。また、過年度は7.6%で、前年度より1.8%下降しました。このことから、特に過年度の滞納者に対する督促や分納誓約などの取組を強化する必要があります。				
今後の方向性	経済的理由による就学困難者の負担軽減を図るため貸付事業を継続します。また、返還事務については、滞納者に対し納付相談等の個別の対応を実施しながら、滞納整理を図ります。				
令和2年度の課題	滞納解消に向けた取組として、引き続き口座振替の推進や、納付相談等の個別対応を実施しながら、特に過年度の滞納者に対する督促や分納誓約などの取組を強化していきます。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、収入の減少により返還が困難になった方に対し、猶予制度について周知を図ります。				
【評価委員の意見】 貸付ということで申請がしにくいところもあるのかもしれないので、給付についても検討していただけたらと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[23] 道徳教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：ー / 決算：ー)				
目的	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな自然・社会体験を通して児童生徒の内面に根差した道徳性の育成を図ります。				
事業内容	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図ります。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 主幹教諭研修会において、道徳教育についてのカリキュラム・マネジメントや評価についての共通理解を図ります。また、道徳教育研修会では道徳教育推進教師と担任を対象に、中学校での授業を伴った研修を実施し、「考え、議論する道徳」の具体について指導助言を行います。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、教育内容等を「つなぐ」「見直す」、ひとやものを「活かす」の視点から、道徳教育のカリキュラム・マネジメントの指導を行いました。また、道徳教育研修会では、稲築中学校において授業を伴った研修を実施し、「考え、議論する道徳」を目指した授業づくりについて指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 道徳の授業公開の実施1回以上の目標値、特別の教科道徳の評価に係る校内研修1回以上の目標値に対して、小中学校とも目標値を達成することができました。特に、中学校では、道徳科の評価についての研修を日常の授業改善や通知表、指導要録に反映させることができました。また、各小中学校とも「考え、議論する道徳」に向けた教材研究や授業づくりを行い、実践の積み重ねができています。				
今後の方向性	道徳教育の充実に向け、今後も「考え、議論する道徳」の授業づくりができる取組を実施します。				
令和2年度の課題	道徳教育の充実に向け、大要づくりへの指導を行うとともに、評価からの授業改善を図ることができるよう指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[24] キャリア教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：242千円 / 決算：148千円)				
目的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。				
事業内容	市内の小中学校において、総合的な学習の時間や特別活動等の中で、基礎的・汎用的能力を育成する教育活動を展開します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 主幹教諭研修会において、キャリア教育の視点とカリキュラム・マネジメントの側面から、キャリア教育の年間指導計画の改善・実践ができるよう指導助言を行います。また、キャリア・パスポートの活用について指導助言を行います。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、キャリア教育の意義やキャリア・パスポートの活用の仕方を指導するとともに、キャリア教育の年間指導計画の改善及び実践への指導を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 キャリア教育年間指導計画の改善・実施の目標値に対して、小中学校13校とも改善・実施することができました。また小中学校とも、キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力を育成していくためのキャリア・パスポートを作成することができました。令和2年度は、作成したキャリア・パスポートを活用したキャリア教育が期待されるところです。				
今後の方向性	今後も、体験的な学習活動をもとに、キャリア・パスポートを充実させていくことで、児童生徒の職業観や労働観、自己の生き方を見つめさせることが期待できます。また、郷土の良さを味わう機会としても、学習をさらに充実させていきます。				
令和2年度の課題	主幹教諭研修会において、キャリア教育の視点とカリキュラム・マネジメントの側面から、キャリア教育の年間指導計画の改善やキャリア・パスポートの充実に向けた指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 2020年実施を先行して始めていることを、高く評価します。 年間指導計画への改善・指導を教育委員会と示して、各学校が計画を立てたのは、目標として達成できて当然だと感じます。もう少し高い目標を設定してもらいたいと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[25] ボランティア活動推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：ー / 決算：ー)				
目的	家庭や地域社会と連携して、児童生徒が他の人々や社会のために役立つとともに自分が価値のある存在であることを実感し、よりよく生きるための道徳的実践力の育成を図ります。				
事業内容	市内全小中学校において、ボランティア活動を計画的に実施します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、各学校の特色を活かす取組みや目指す資質能力の育成に向けたボランティア活動の推進について指導助言を行います。 【課題等への取組】 「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、各学校の特色を活かしたボランティア活動の実践について指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ボランティア活動実施校13校の目標値に対して、ボランティア活動実施校は11校で目標を達成することができませんでした。 ボランティア活動実施校では、特別活動や総合的な学習の時間を活用して、地域の清掃活動、河川清掃等、空き缶拾い等、各学校の特色を活かしたボランティア活動を実施できました。特に、中学校において地域の方と一緒に活動したり、異学年でのグルーピングが見られたりするようになりました。また、学校通信等でボランティア活動の啓発や活動の様子を発信することができました。				
今後の方向性	これまでに取組んできたボランティア活動を温めながら、各学校の特色を活かすとともに、地域や家庭と連携して取組める内容へと発展させていきます。				
令和2年度の課題	「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、特別活動や総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し、各学校の特色を活かす取組みや目指す資質能力の育成に向けたボランティア活動の推進について指導助言を行います。				
【評価委員の意見】					
以前、中学校区の小中合同で行っていたと思いますが、続けてほしい事業です。 ボランティア活動は、思いやりや地域愛にもつながることなので、継続してください。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[26] 学校保健事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：19,835千円 / 決算：19,027千円)				
目的	家庭、地域及び関係機関等の連携・協力により、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。				
事業内容	児童生徒、教職員の健康診断等を実施します。また、市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行います。さらに、各学校において学校保健及び学校安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行います。災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 健康診断受診率100%達成のために、継続して周知と啓発に取り組みます。特に、健康診断を「受診ができない、していない」理由を明らかにし、課題解決に向けた啓発を行います。また、実効性ある学校保健年間計画にしていくための指導助言を行います。 【課題等への取組】 健康診断受診率100%達成のために、関係機関と連携を図り、小中学校へ指導や保護者への通知を行いました。また、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理を徹底できるように、学校保健年間計画の見直しと検証を進めていきました。災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 健康診断受診率97.7%となりました。「未検査用の受診のお知らせ」を配布したり校医やかかりつけ医での受診を促したり、担任の方から保護者へ受診を促すなどの取組みを行いました。保護者が受診を希望されない場合があります。また、養護教諭を中心に児童生徒の保健・安全に関する指導と保護者啓発、全教職員のストレスチェックの実施等心身両面にわたる健康管理の徹底を図るとともに、学校保健年間計画の見直しを行いました。				
今後の方向性	児童生徒及び教職員の健康診断を実施し、心身両面にわたる健康管理の徹底を図るため、継続して周知と啓発に取り組むとともに、各学校の学校保健年間計画の内容について指導していく必要があります。また、災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を確実に実施します。				
令和2年度の課題	健康診断受診率が目標達成にかかる指標（100%）を達成できるよう関係機関等との連携を図り、小中学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[27] 学校給食運営事業（学校教育課：学校給食係） (予算：255,710千円 / 決算：238,124千円)				
目的	嘉麻市内小中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実につとめます。また、「食育」に関する授業の実施で「食事の重要性」等を身につける教育を支援します。				
事業内容	嘉麻市内全小中学校で完全給食を実施しています。衛生管理の徹底を図るために、施設の改修及び調理員を対象とした衛生管理研修を実施しています。 食育に関しては、「食育の日」「食育月間」はもとより、年間を通じて学校毎に実態に応じた取組みを行っています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図り、食物アレルギー対応についても適切な対応を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援や教員に対する給食指導の研修を行います。また、地場産利用率については30％を維持し、更なる利用率の向上を目指します。 【課題等への取組】 - 給食を生きた教材として、食に関する教育の支援を行いました。 - 新規採用講師に対する講師研修として、食育研修を実施しました。 - 献立に則した『食育だより』を発行する際に地元生産者への取材を行い、地場産物への意識向上に努めました。 - 地元直売所を活用し、地場産の利用率向上に努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 年間190回を基準に給食を実施する予定でしたが、令和2年3月に実施された小中学校の臨時休業により14回分の給食が実施できませんでした。なお給食費については3月分（1回）の給食費を無償といたしました。また、給食の提供数については1日約3,300食の提供を行いました。 食育指導に対する資料の提供や教員に対する食育研修会を実施いたしました。 地産地消の推進に関しては、例年同様に地元直売所を通じ、地場産の利用に努め、地場産利用率31.6%で、前年度に比べ0.6ポイント下落しましたが、目標値である25%以上の利用を達成することができました。				
今後の方向性	安心・安全な学校給食の実施のため、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた衛生管理意識の徹底とアレルギー対応についても適切な対応を図ります。給食の時間を活用した食育指導の充実を図ります。地場産物の更なる活用に向け、地場産物への意識の向上を図ります。				
令和2年度の課題	新型コロナウイルス感染症対策もふまえた安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図り、食物アレルギー対応についても適切な対応を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。また、地場産利用率については30％を維持し、更なる利用率の向上を目指します。				
【評価委員の意見】 地場産利用率は、全国平均を調べたら26%だったので、すごい努力をしていると思いました。 アレルギー除去の調理は大変だと思いますが、今後とも継続してください。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[28] 学校給食費算定及び収納事業（学校教育課：学校給食係） (予算：358千円 / 決算：301千円)				
目的	学校給食費は、賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安心・安全な食材の購入等を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を確保するために、徴収業務を行います。				
事業内容	栄養バランスのとれた食材の購入ができるよう予算管理を行っています。 受益者負担の公平性を確保するため、給食費徴収業務を行っています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。 【課題等への取組】 収納率向上への取組みとして、未納通知や催告書を発送するとともに、訪問による徴収も実施しました。高額未納者に対しては電話や個別訪問で納付相談を実施し、新規の児童手当からの同意書の提出により、分割納付や児童手当からの引去り実施件数を増やすよう努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 未納通知や催告書の発送、訪問徴収等収納率向上への取組みを実施しました。 現年度（31年度）の収納率は98.78%で、前年度に比べて0.38ポイント下落しましたが目標値である98.60%以上を達成しました。過年度の収納率は14.05%で5.17ポイント下降し、目標値である22.40%に及びませんでした。過年度の繰越額については昨年度に比べ、257,437円減少しました。日頃の訪問徴収に加え、年度末・出納閉鎖期間に夜間徴収を強化しておりましたが、新型コロナウイルス感染症により実施を控えた影響もあります。				
今後の方向性	栄養バランスのとれた安心・安全な食材の購入を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を図るため、徴収業務を行います。				
令和2年度の課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。				
【評価委員の意見】 滞納業務はすごく大変な作業だと思いますが、少しでも減るように頑張っていたきたいと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進

事業名 (予算/決算)	[29] 読書活動推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：29,437千円 / 決算：28,370千円)				
目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。				
事業内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受入れ、貸出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書を配置し、学校図書館の整備、充実を図っています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 市立図書館との連携をもとに、資料センターとしての図書館利用の促進、各学校での読書活動の充実及び家庭での読書「うちどく」の啓発等、効果的な取組みを推進していきます。 【課題等への取組】 市立図書館の職員との合同研修会や意見交換会を年2回実施し、図書館利用の促進、読書活動の充実を図りました。また、チラシなど配付をもとに家庭での「うちどく」の啓発を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 一人当たりの貸出冊数は38.08冊で、目標値の38冊を超えることができました。しかし、小学校の貸出冊数53.7冊に対し、中学校は13.05冊となり、中学校の読書量を増やすことが課題と考えます。 学校司書等は各学校に1名ずつ配置することができ、また、学校図書館協議会についても2回開催することができました。				
今後の方向性	児童生徒一人当たりの年間貸出冊数の指標を40冊とし、読書量を増やすことにより、児童生徒の学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心を育てていきます。また、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」としての機能を果たすことができるよう蔵書を充実させ、授業で活用できるよう整備を行っていきます。				
令和2年度の課題	司書教諭と学校司書の連携を深め、中学校生徒の読書量を増やすための取組みを行います。また、家庭と連携して読書活動を進めるため、「うちどく」の啓発等、効果的な取組みを推進していきます。				
【評価委員の意見】 読書通帳など、子どもたちが興味を持つきっかけが必要だと思います。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算/決算)	[30] 適応指導教室（れすとぴあ）推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：4,094千円 / 決算：4,081千円)				
目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組めます。教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
事業内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 学習や体験学習等を通して、集団生活への適応指導を行い、チャレンジ登校を実施しながら、学校復帰を目指した支援を行います。また、必要に応じて関係機関等と連携して取組みを進めます。 【課題等への取組】 れすとぴあにも通級することができない児童生徒に対して、福岡県立大学や関係機関と連携しながら、指導・支援の方法を検討しました。また、児童生徒の学校復帰を支援するため、集団生活へ適応できるようにソーシャルスキルトレーニングを年間通して指導し、教育相談やチャレンジ登校も実施しました。より指導が充実するように、学校と連携して個別の支援計画・指導計画を作成しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 目標達成にかかる指標は達成しています。れすとぴあに2名の適応指導教室指導員兼相談員を配置し、適応指導、教科指導、教育相談等を行いました。令和元年度は適応指導教室（れすとぴあ）に計9名の児童生徒が在籍しました。小学6年生1名と中学生2名は学校復帰を果たしました。小学生4名と中学生2名は学校復帰とはなりませんでした。チャレンジ登校は各学期1回以上実施、アウトリーチ支援実施校は4校です。				
今後の方向性	今後も不登校児童生徒を減少させるためには、学校への復帰支援や居場所づくり、その保護者が相談できる体制を整備する必要があります。子育て支援課と連携を密にしながら、子どもの安全安心の場所と学習の機会を提供していきます。				
令和2年度の課題	学習や体験学習等を通して、集団生活への適応指導を行い、チャレンジ登校を実施しながら学校復帰を目指した支援を行うとともに、学校、子育て支援課と連携して取組みを進めます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算/決算)	[3 1] 教育相談推進事業（学校教育課：教務係・指導係） ※平成 31 年 4 月から組織改正のため子育て支援課へ移行 (予算：8, 7 0 3 千円 / 決算：8, 7 0 3 千円)				
目 的	いじめや不登校、暴力行為などの問題行動を起こした児童生徒に対して、専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラー（臨床心理士）がカウンセリングを行い、スクールソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）が中心となって関係機関と連携をとりながら問題解決にあたります。				
事業内容	嘉麻市教育研究所にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校等の未然防止に向けて支援を行います。また、必要に応じて、保護者や教職員等の教育相談を実施します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 必要に応じて保護者や教職員等の教育相談を実施し、専門的な立場で指導助言を行い、児童生徒の不登校等の未然防止を目指した支援を行います。なお、就学前の相談も行い、安心して学校生活が送れるようにします。 【課題等への取組】 いじめ・不登校の要因は複雑化しており、学校、嘉麻市教育研究所及び子育て支援課が連携し、スクールカウンセラーによる教育相談、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問や電話相談等の支援、さらに他の関係機関との連携により、いじめ・不登校の解消、未然防止に取り組みました。関係機関の連携や支援に関するチラシを、入学式等の学校行事のときに配布して周知しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 目標達成にかかる指標は達成しています。令和元年度の教育相談は 159 件あり、学校からの要請を受け児童生徒や教職員を対象に行いました。就学相談も 162 件あり、保護者や関係課と行いました。スクールソーシャルワーカーによる面談・相談等の件数は 1,705 件あり、学校・家庭訪問をはじめ、関係課や児童相談所等と協力しながら問題解決にあたりました。令和元年度のいじめの認知件数は 54 件であり、前年度比 27 件減となっています。また、不登校児童生徒数は 51 名（全国出現率 1.69%（H30）に対して嘉麻市出現率 1.86%（R1））までに減少しました。				
今後の方向性	教育相談機能が令和元年度より子育て支援課家庭・教育相談支援係に移ったため、嘉麻市教育研究所としての相談業務が行われなくなりましたが、必要に応じて適応指導教室と子育て支援課家庭・教育相談支援係で連携し、保護者や教職員等の教育相談や就学相談窓口へのつなぎを行います。また、問題行動を起こした児童生徒のカウンセリング等により、いじめや不登校等の未然防止に向けて支援を行う必要があります。				
令和2年度の課題	必要に応じて子育て支援課家庭・教育相談支援係と連携し、保護者や教職員等の教育相談、就学前の相談及び専門的な立場での指導助言を行い、児童生徒の不登校等の未然防止を目指した支援を行います。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算/決算)	[3 2] 学校支援相談員配置事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：7, 5 5 0千円 / 決算：6, 9 0 8千円)				
目 的	家庭にひきこもりがちな不登校児童生徒に対して、児童生徒の抱える心の問題を理解し、積極的に取組む意欲を有する訪問指導員を派遣し、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安を解消し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
事業内容	不登校及び不登校傾向の児童生徒宅を訪問し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 家庭訪問等の支援を細やかに行うことで、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安をやわらげ、登校を促します。また、定期的に関係機関等の会議に出席し、情報共有や適切な支援になるよう検討し、連携しながら支援します。 【課題等への取組】 現在学校支援相談員を3名配置し、家庭訪問等を行い、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導内容・相談を行うことで、適応指導教室への通級及び学校復帰への支援を行いました。また、不登校サポート会議やケース会議、学期ごとに福祉事務所等の関係機関との会議に出席し、情報の共有を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 不登校児童生徒発生率全国平均以下の目標値（1.69%（H30））に対して、嘉麻市児童生徒発生率（1.86%（R1））であり、目標値は達成できませんでした。不登校児童生徒数32人以下の目標値に対して、51人と目標値は達成できませんでした。しかし、今現在、学校支援相談員を3名配置し、登校を促すとともに、適応指導教室への通級、学校復帰者の増加、欠席日数の減少等、不登校解消に向けての成果が出ています。				
今後の方向性	今後も、子育て支援課と連携し、不登校解消への取組みを組織的に行う必要があります。令和2年度は、市内小中学校不登校児童生徒数42人以下（各学校の目標指数合計）（全国出現率1.69%（H30））に対して嘉麻市出現率1.86%（R1））を目指します。今後、不登校対策協議会（仮）等の体制づくりを行い、学校支援相談員と連携した取組みが必要です。				
令和2年度の課題	子育て支援課と連携し、家庭訪問等の支援を細やかに行うことで、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安をやわらげ、登校を促します。また、定期的に関係機関等の会議に出席し、情報共有や適切な支援になるよう検討し、連携しながら支援します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		（前回）	（A）		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[33] 地域教育資源・人材活用事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：1, 206千円 / 決算：888千円)				
目的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校の創意を生かした教育課程を編成し、地域社会の現状を踏まえ、児童生徒の学習に協力することのできる地域の人材や施設を生かし、教育活動を行います。				
事業内容	専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で大変効果的であり、地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を推進します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 主幹教諭研修会において、郷土を愛する人材を育成していくためのカリキュラム・マネジメントを行い、各学校における教育課程の改善内容を確認させます。また、地域や家庭と連携し、各学校で実践した学習を地域や家庭に広報していくことを指導します。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、地域の「ひと、もの、こと」の活用が見える資料づくりや4つのカリキュラムづくりの視点について指導助言を行いました。また、学校通信などをもとに、各学校が実践した学習を地域や家庭に広報するよう指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域教育資源・人材を活用する教育活動計画作成・実施13校の目標値に対して、13校作成・実施及び地域の教育資源を活用した教育活動を展開することができています。地域の特性を生かした活動の充実に向けた教材研究や教育課程の編成も徐々に進んでいます。学校通信やHPをもとに、各学校での実践が広がりつつあります。今後も継続して改善に取り組み、教科や単元の目標と照らし合わせ、効果的な学習にしていける必要があります。				
今後の方向性	今後も教育課程の見直し、地域資源や地域人材の活用計画の充実、学習活動の実施・評価を行うとともに、地域や家庭の教育力の向上を視野に、取組みの成果を地域や家庭に広報していく必要があります。				
令和2年度の課題	主幹教諭研修会において、地域の「ひと・もの・こと」を活用した単元等を交流する場を設定するなど、郷土を愛する人材を育成していくためのカリキュラム・マネジメントについて指導します。また、地域や家庭と連携し、各学校で実践した学習を地域や家庭に広報していくことを指導します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A:期待どおり、B:概ね期待どおり、C:課題あり、D:事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[34] 学校と地域が連携して子どもを育む事業 (学校教育課：教務係・指導係 生涯学習課：社会教育係) (予算： — / 決算： —)				
目的	子どもたちの総合的な健全育成と学力向上の手段として学社連携を推進するとともに、多岐にわたる学校教育の指導に地域の教育力を活用し、地域全体の教育力を高めます。				
事業内容	ボランティア人材バンクの活用や住民会議、子ども会事業、学校行事等を通して、学校と地域が連携・協力できるよう支援します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 教職員の研修等を含む学校行事と地域団体事業の日程が同時期に重なる事があったため、学社間の日程を調整し、連携した担当者会議の開催など、情報の共有と事業の検証を行う必要があります。 【課題等への取組】 住民会議などの団体が地域活動指導員と連携し、学校との日程調整や周知・募集をし各事業を行いました。また、ボランティア人材バンク事業では、地域活動指導員が学校と人材バンク登録者とのコーディネートを行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・学社連携・交流事業の実施回数：5回（アクションプラン目標値：6回） 各地区において学校と住民会議などの団体が連携し、青少年育成懇談会での交流やスポーツイベントの相互支援を行いました。 各地区での連携・交流は行われていますが、総括した担当者会議開催に至っていないことから、事業の効果及び効率性を「B」評価としました。				
今後の方向性	学校と地域が情報交換・情報共有できるよう支援し、学校と地域団体との協働活動を推進します。				
令和2年度の課題	会計年度任用職員制度実施に伴い、地域活動指導員の勤務形態が変わることから、学校と地域の連携についての支援方法等を検討する必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[35] 家庭教育支援事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：319千円 / 決算：47千円)				
目的	子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育ての不安や負担感・行き詰まり感の解消を図る事業の実施や、地域活動を通して子育て家庭と地域の人たちの交流や保護者同士の交流を図り、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを目指します。				
事業内容	・メディアが及ぼす影響・対策に関する啓発活動等（メディア講座） ・屋外体験事業（ミニプレーパーク事業） ・家庭教育支援講座（子育て講座）				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 少子化や保護者の早期復職などにより、講座参加者が減少傾向にあることから、開催時期や関係他課と連携した事業内容の検討を行う必要があります。 【課題等への取組】 家庭教育支援講座について、図書館係ブックスタートフォローアップ事業「絵本ですくすく講座」と連携し、子育て講座「おんぶとだっこでぬくもり育児」を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・メディア講座回数/参加者数：127回/3,892人 （アクションプラン目標値：150回/7,300人） ・家庭教育支援講座回数/参加者数：9回/522人 （アクションプラン目標値：30回/1,000人） メディア使用に関するモラルの啓発や、子育て講座での情報提供など、参加者に対し有用性のある講座実施により、事業の効果は「A」評価としました。 各講座について、新型コロナウイルス対策の影響による開催中止や、事業担当の地域活動指導員の減員に伴い、実施回数及び参加者数は目標値を下回ったため、事業の効率性は「B」評価としました。 なお、事業の周知を図るため、独自で家庭教育支援事業のリーフレットを作成しました。				
今後の方向性	スマートフォン利用の低年齢化に関連したいじめや事件など、SNS等に関するモラル低下が問題となっているため、子どもに対する教育のほか保護者への啓発を継続して行っていきます。また、子育て家庭の支援について関係各課と連携した取り組みを推進します。				
令和2年度の課題	SNSを使用したいじめ問題や、メディア使用過多による学力低下・生活習慣の乱れなど、メディアに関する影響については広範に啓発を行っていく必要があります。				
【評価委員の意見】 地域ぐるみで支援する体制作りを考えると、もう少し地域の人たちとの交流を意識したような事業を考えてもいいのではないのでしょうか。 啓発はできていますが、事業を行っていることを知らない保護者がいます。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[36] 青少年健全育成事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：1, 458千円 / 決算：1, 203千円)				
目的	総合的な青少年の健全育成のための活動並びに関係機関との連携を強化します。				
事業内容	・ 青少年の悩みや相談に電話や直接対応できるよう、学校教育課や嘉麻市教育研究所と連携し相談体制の充実を図ります。 ・ 少年補導委員が効率的に活動できるよう支援を行なうとともに、嘉麻市教育研究所と連携し市内巡回を行うことにより、不審者等から児童・生徒の安全を確保するとともに、いじめや非行防止を図ります。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 ・ 相談業務について学校教育課や嘉麻市教育研究所と連携を行い、より充実した相談体制づくりをする必要があります。 ・ 少年補導委員への継続的な支援を行うとともに、資質向上を図るための研修会を開催し、参加を促す必要があります。 【課題等への取組】 青少年からの相談に対し学校教育課と連携し、内容の把握・確認を行いました。また、少年補導委員の活動に対する支援を行い、定期的な巡回や街頭補導により、児童生徒の安全確保を図りました。なお、3月実施予定であった補導委員研修会は新型コロナ対策のため中止しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・ 嘉麻市少年補導委員委嘱人数：39人（アクションプラン目標値：47人） 少年補導委員について、巡回等により事案発生を抑止力に繋がっているため、事業の効果は「A」評価としました。 高齢化等により欠員が生じており、延べ巡回件数が減少していることから、事業の効率性は「B」評価としました。 市の補導委員は嘉麻警察署少年補導委員に準じて委嘱しているため、次年度以降の体制について、嘉麻警察署と情報共有を行いました。 電話相談について、学校教育課との情報共有を迅速に行いました。				
今後の方向性	関係課・関係機関等と連携・協力し、相談業務体制の充実を図ります。 引き続き嘉麻警察署や補導委員、関係機関と連携・協力を行いながら、児童生徒の安全確保に努め、青少年の健全育成を図ります。				
令和2年度の課題	相談業務対応の配置人員の増員とスキルアップを図る必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(6) 男女共同参画教育の推進

事業名 (予算/決算)	[37] 学校における男女共同参画推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算： — / 決算： —)				
目的	男女共同参画の意識づくりをする上で、家庭や学校・地域での教育が重要であり、「嘉麻市男女共同参画推進条例」の理念に基づき、男女共同参画の趣旨や必要性について、教育を通して意識改革と啓発を促進します。				
事業内容	学校教育の場においては、指導者の共通認識のもとに男女平等の教育の体制をつくり、男女平等の視点から習慣・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとられない指導を進めます。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりや男女共同参画を意識したカリキュラム・マネジメントを推進します。 【課題等への取組】 「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」を各学校に配布したり、「実践の手引き」をもとに下山田小、稲築東小、稲築中学校でモデル授業を行ったりして、男女共同参画教育の推進を図りました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教職員等の研修実施の目標値に対して、8校実施と目標値を達成することができませんでした。男女共同参画に関する授業の実施13校の目標値に対して、13校実施できており目標を達成することができました。その中で、「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した学校は、小学校は8校中8校が、家庭科や社会科、体育科、道徳科、学級活動、総合的な学習の時間で活用できました。中学校では5校中3校が、社会科や家庭科で活用できました。性に関する研修やそれを基にした授業実践が実施される中、LGBTへの理解が進められています。また、各学校では、日常的に男女混合名簿を使用したり、学校での仕事分担を児童生徒の意欲や適正で決定したりする等の状況が定着しています。				
今後の方向性	「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用し、男女平等等の観点から慣習・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとられない指導を進めます。				
令和2年度の課題	「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりや各教科等の年間指導計画における活用の位置づけを推進します。				
【評価委員の意見】 教職員の研修実施を、ぜひ全校達成できるようにしてください。 LGBTへの理解は必要だと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(6) 男女共同参画教育の推進

事業名 (予算/決算)	[38] 地域社会における男女共同参画推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： / 決算：)				
目的	身近に生活する地域社会において、今なお残っている固定的な性別役割分担意識に基づく慣習・慣行の見直しや男女共同参画の啓発を行うとともに、学習機会の提供に努めます。				
事業内容	社会教育における事業や講座を通して、男女共同参画の趣旨や必要性について意識啓発を行うとともに、性別役割分担意識の解消に努めます。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 男女共同参画推進課と連携し、男性保護者を対象とした事業・講座の実施を検討する必要があります。 【課題等への取組】 男女共同参画に係る県の補助事業の募集に合わせ、小学生と男性保護者を対象とした事業を企画立案し、男女共同参画推進課を通して県に申請を行いました。企画が選考から漏れたため、来年度においても積極的な補助事業の活用を行います。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・男女共同参画の啓発活動：4回（アクションプラン目標値：6回） 通学合宿において、合宿生及び保護者に対して家庭での固定的な性別役割分担意識の解消に繋がるような啓発を行いました。 ミニプレーパーク事業などの外遊びや、親子体験活動を実施することにより、男性保護者が家庭教育に参画するきっかけ作りを行いました。事業に参加した保護者159人のうち、男性保護者は41人（約35%）であったため、事業の効果及び効率性は「B」評価としました。				
今後の方向性	実施する事業の中で、男女共同参画推進課と連携し、男女共同参画についての意識啓発を行います。また、男性の家事・育児への参画を促す講座や男女の性別役割分担意識の解消に繋がるような取組みを進めます。				
令和2年度の課題	男性保護者も含め、家族での参加を促すような事業・講座の実施を検討し、家庭における男女共同参画を推進する必要があります。				
【評価委員の意見】 実際、学校行事の父親参加率は多く、学校を支えてくれる方々は多数います。ミニプレーパークの参加率で考察すべきではないと思います。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算/決算)	[3 9] 社会教育関係団体等育成事業 （生涯学習課：社会教育係） (予算：5, 4 5 8千円 / 決算：5, 0 6 3千円)				
目 的	社会教育関係団体が主体的に活動できるよう情報の提供や研修会の実施、事業運営の支援を行い、協働のまちづくりが図られるよう地域のリーダー育成に努めます。				
事業内容	社会教育関係団体をはじめ、各種団体が自主的な運営や事業展開が図れるよう指導助言等を行い、育成支援を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 社会教育関係団体が実施する事業内容を精査し、人材育成・組織改編等、自立に向けた指導助言を行う必要があります。 【課題等への取組】 人材不足により従前規模の事業運営が困難な団体に対し、事業実施の方向性についての指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・支援団体数：9 団体（アクションプラン目標値：10 団体） 社会教育関係団体の自主的な運営に向け、現状を勘案した事業実施について指導助言を行いました。事業の企画立案・実施について主体性を持ち運営している団体もありますが、役員の固定化・人材不足のため、地域活動指導員を含む職員の実務支援を要する団体もあることから、事業の効果及び効率性を「B」評価としました。 また、団体主催事業について、市広報・ホームページの掲載及び市内回覧など、PR面でのサポートを行いました。				
今後の方向性	・社会教育関係団体の運営の活性化を図るとともに、新たな取組みを促進するため、必要に応じて適切な指導・助言を行います。 ・各種団体の課題を認識し、人材を育成するとともに自立に向けた支援を行います。				
令和2年度の課題	新型コロナウイルス感染症対策に伴う事業実施の方策を含め、自立に向けた指導助言を継続的に行う必要があります。				
【評価委員の意見】 各団体の活動内容が周知されるべきだと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[40] 社会教育施設整備事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：50,643千円 / 決算：46,529千円)				
目的	市民の様々な学習ニーズに応える生涯学習の場（拠点）を適切に提供できるよう、施設の特徴及び防災上の活用を考慮し、優先度の高いものから改修と整備（保守・管理）を行い、効果的な生涯学習活動の場としての整備を図ります。				
事業内容	社会教育施設の維持管理・改修・補修、施設備品の管理・補修を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 なつき文化ホールの大規模改修（吊り天井改修）を令和2年度に予定しているため、他の施設利用を促すなどの事前周知を行う必要があります。 【課題等への取組】 施設内の掲示及び広報等による周知を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 ・施設利用者数：74,247人（アクションプラン目標値：81,300人） 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標達成率は約91%でした。 緊急性を考慮し、必要最小限の補修等により適切な維持管理に努めました。 生涯学習活動の場として整備・提供できていることから、事業の効果は「A」評価としました。 維持管理に伴う経常支出に加え、経年劣化に伴う不慮の修繕・補修により予定外の支出があり、費用対効果の面から、事業の効率性については「C」評価としました。				
今後の方向性	・社会教育施設を適正に維持管理運営することで、市民に教育・文化活動や発表を行う場と機会を継続して提供します。 ・行財政改革に伴う個別施設の見直し計画・方針に基づき、適正な運営を行います。				
令和2年度の課題	施設利用に係る新型コロナウイルス感染症対策及び利用者への周知徹底を図る必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[4 1] 生涯学習推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：32,563千円 / 決算：28,673千円)				
目的	市民が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯学習推進体制の整備をはじめ、生涯学習の総合的推進を図るとともに、地域の生涯学習施設等を活用した生涯学習のための活動を推進します。				
事業内容	地域活動指導員を配置し、地域活動及び生涯学習の推進を図ります。 社会教育関係職員・地域活動指導員の研修会への参加や、社会教育主事の養成など関係職員の資質向上に努めます。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 ・人材バンク事業について、高齢化等により登録者が減少傾向にあるため、新たな人材の発掘と確保の必要があります。 ・生涯学習推進事業全般の実施については、現在の職員（地域活動指導員含む）数において実施・支援ができており、機構改革等により人員削減となった場合、事業内容及び支援方法の見直しや、事業の縮小・廃止も検討する必要があります。 【課題等への取組】 ・新規ボランティア発掘に繋がるよう、各地区の登録者を対象とした研修会を検討していましたが、新型コロナ対策のため見送りました。 ・筑豊教育事務所等で開催された研修会への積極的な参加を促進し、職員・地域活動指導員の資質の向上に努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・人材バンク派遣回数：74回（アクションプラン目標値：160回） 各地区の地域活動指導員が小学校を中心に人材バンク事業の周知を行い、学校や地域の生涯学習活動の活性化に努めました。 人材バンク登録者の高齢化や派遣者の固定化などにより、目標値を下回っていることから、事業の効果及び効率性を「B」評価としました。				
今後の方向性	市民の生涯学習活動が円滑に行われるよう、地域活動指導員を配置し、家庭・地域の教育力の向上と、子どもたちの生きる力や地域リーダーの育成を図ります。				
令和2年度の課題	人材バンク登録者の減少に伴い利用件数も減少傾向にあるため、ボランティア募集の周知方法や学校等への利用の働きかけを行う必要があります。				
【評価委員の意見】 とても大事な事業であるので、ぜひ続けてほしいと思います。今ある団体の運営に関わったり、活動費の助成額を上げたり、広報誌等を利用し、広く周知してください。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[42] 青少年体験活動推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：1,065千円 / 決算：927千円)				
目的	青少年の人格形成に大切な少年期に生活体験や自然体験等の活動を促進し、社会性、自主性等を身につけた地域リーダーとなる人材育成を推進します。				
事業内容	子どもの基本的生活習慣の確立を目指し、実行委員会と連携して実施している通学合宿事業、小学生が題材に沿ってエッセイを書く「わたしのエッセイ」事業など、子どもの体験活動を実施します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 ・通学合宿については全地区的に実施していますが、山田地区は下山田小学校のみでの実施となっているため、山田地区全体で実施できるよう支援していく必要があります。 ・青少年体験活動推進事業については、現在の職員（地域活動指導員含む）数において実施・支援ができており、機構改革等により人員削減となった場合、事業内容及び支援方法の見直しや、事業の縮小・廃止も検討する必要があります。 【課題等への取組】 ・通学合宿について、上山田及び熊ヶ畑小学校は実施していないため、上山田小学校（PTA）と協議しましたが、現段階ではボランティア不足により実行委員会の立ち上げに苦慮している状況です。熊ヶ畑小学校については、今後、上山田小学校との合同実施を働きかけていきます。また、4地区合同の実行委員との意見交換会を開催しました。 ・事業担当者の減員はなく、計画に沿った事業を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・通学合宿の参加者数：63人（アクションプラン目標値：80人） ・エッセイの応募点数：1,580点（アクションプラン目標値：1,210点） 通学合宿について、4地区合同の意見交換会を開催し、課題や対応などの情報を共有し、次年度以降の実施方法について協議しました。 「わたしのエッセイ」は、対象児童1,827名中1,580点の応募がありました。 通学合宿における基本的生活習慣の習得、エッセイでの表現力の向上に繋がっていることから、全て「A」評価としました。				
今後の方向性	子どもたちに様々な体験活動の機会を提供することにより、社会性・自主性・表現力などの「生きる力」を育みます。				
令和2年度の課題	新型コロナウイルス感染症対策に伴う今後の事業実施について検討する必要があります。				
【評価委員の意見】 わたしのエッセイは、子どもたちにとってとても大切なことだと思いますので、これからも毎年続けてほしいです。 通学合宿は、これからも続けてほしい事業です。ボランティアに高校生の参加も考えてはどうでしょうか。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[43] 公立公民館・自治公民館連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：16,001千円 / 決算：14,743千円)				
目的	公立公民館及び自治公民館の連携強化、併せて地域の公民館が生涯学習活動の拠点として機能するよう施設の適切な維持管理を行うことを目的とします。				
事業内容	地域課題の把握や情報共有並びに公民館運営及び公民館基本計画に基づく分館方式移行への共通認識を図るため、公立公民館長及び自治公民館長の会議を開催します。また、分館及び自治公民館の活動及び自治公民館施設の適正な維持管理を支援するため補助金を交付します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 公民館基本計画を進めていくうえで、施設整備を伴うものについては、財源確保が難しい状況であるため、有利な財源を利用して計画が実施できるよう、実施時期等の見直しを行う必要があります。 また、耐用年数を超えた施設や老朽化した施設が多くあるため、施設の整備や修繕についても計画を立て、実施していく必要があります。 【課題等への取組】 公立公民館長並びに自治公民館長会議を開催し、公民館基本計画に基づく分館方式への移行についての情報共有を図りました。各公民館の活動や施設の維持管理を支援するため補助金の交付を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・公民館運営審議会の開催数「H31の目標値3回、実績3回」 ・分館長会議の開催数「H31の目標値3回、実績2回」 ・自治公民館長会議の開催数「H31の目標値3回、実績2回」 ・研修会への参加「H31の目標値4回、実績4回」 ・公民館総合賠償制度保険料 1,802千円（中央公民館、4地区公民館、8分館） ・分館運営費補助金 3,674千円（山田4館、嘉穂4館） ・自治公民館等活動補助金 3,567千円（稲築27館、碓井23館） ・自治公民館の修繕料補助金 1,851千円（稲築2館） 上記により、本事業の必要性は大きく、概ね期待どおり実施できたと考えますが公民館基本計画に基づく分館方式移行への共通認識を構築していくため、理解等を得ていく時間を要しています。よって効果・効率性については「B」評価としています。				
今後の方向性	公立公民館・自治公民館の連携強化のため、分館方式への移行について共通理解が得られるよう、引き続き地域住民等へ説明を行っていくとともに、共通理解が浸透している地域から分館方式への移行に向けた準備に着手します。				
令和2年度の課題	公民館基本計画に基づく施設整備については、財源確保が困難な状況が続いており、財源確保のための調査や実施時期の検討を行う必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[44] 公民館活動活性化推進事業（生涯学習課：中央公民館係） (予算：75,812千円 / 決算：72,184千円)					
目的	住民相互の交流と教養の向上、さらには健康増進を図り、地域住民の生きがいづくりの場を提供することを目的とします。					
事業内容	地域住民の生活に根ざした教育・文化に関する各種の事業・講座を開催します。また、地域で活動する人材の育成及び団体等の支援を行いながら地域住民参加型の事業を推進します。					
令和元年度の課題と取組	【課題等】 人口減少や少子高齢化の影響による公民館活動への参加者の減少、後継者不足により、公民館活動が停滞している地域も見られます。そのため、地域の核となる人材を育成する事業を実施することで、地域の主体的な公民館活動に繋げる取組を行う必要があります。 【課題等への取組】 公民館基本計画に定める「公立公民館で実施する事業」に基づいた事業展開を図りました。それぞれの地区公民館で事業の企画立案を行い実施しました。 また、地域住民と協働で事業を実施することで、公民館活動の推進を図ることができました。					
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D	
	事業の必要性	○				
	事業の効果	○				
	事業の効率性		○			
	【自己評価の根拠】 ○地域住民との協働による事業数「H31の目標値15事業、実績16事業」 主な事業等 ・夏、冬休みときめき学習 延べ47回 参加者数1,753名 ・夢まつり 延べ1回 参加者数450名 ・サルビア大学 延べ10回 参加者数508名 ・青空フェスタ 延べ2回 参加者数600名 ・地域スポーツ大会 延べ3回 参加者数234名 ・ふるさと探検隊 延べ11回 参加者数516名 ○公民館講座数「H31の目標値12講座、実績18講座」 主な講座等 ・防災講座 延べ7回 参加者数158名 ・日本語教室 延べ8回 参加者数89名 ・ヨガ体験教室 延べ8回 参加者数164名 ・わんぱく団子作り、陶芸 延べ3回 参加者数38名 ・エコファテーク教室 延べ3回 参加者数39名 ・絵葉書、はんこ作り 延べ6回 参加者数100名 上記により、概ね期待どおり実施できたと考えます。					
	今後の方向性	公民館基本計画に定める「公立公民館で実施する事業」に基づいた事業を実施することで、公民館活動の活性化を図ります。また、地域人材を活用できる事業・講座の企画・運営を通じ、地域の核として活動する人材の育成を図ります。				
	令和2年度の課題	今後は、新型コロナウイルス関連による新しい生活様式を取り入れた講座や研修会の開催を検討する必要があります。				
	【評価委員の意見】 講座のPRをお願いします。 講座内容を市民の意向を聞いてから開設すると、もっと人気が出るのではないのでしょうか。					
	教育委員会評価		今回		A	
			(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[45] 図書館施設管理運営事業（生涯学習課：図書館係） (予算：12,166 千円 / 決算：11,632 千円)				
目的	図書館施設及び図書館システムを適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用できる図書館サービスを提供することを目的とします。				
事業内容	・ 図書館施設及び図書館システムの維持管理・選書等資料の管理 ・ 配本車の巡回・移動図書館車の運行・図書館だよりの発行 等				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 地域の図書館がより身近で利用しやすいものとなるよう、利用者の利便性の向上を図る必要があります。また、安心して利用していただけるよう、山田図書館の整備を進めていく必要があります。 【課題等への取組】 利便性向上のため、利用者から要望の多かったインターネットからの在架資料の予約を可能としました。また、山田図書館の特定天井改修に向けて設計委託を行いました。工事は令和2年7月から約6か月間の工期を予定しています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・ 施設利用者数：56,893 人（教育アクションプラン目標値：62,800 人） ・ 年間貸出冊数：189,248 冊（教育アクションプラン目標値：201,800 冊） ・ 移動図書館車の貸出冊数：17,599 冊（教育アクションプラン目標値 12,500 冊） ・ 市民一人当たりの貸出冊数：4.70 冊（教育アクションプラン目標値 5.4 冊） 全体的な図書館利用の指標については目標値を下回っておりますが、移動図書館車の貸出冊数は目標値を大幅に上回っており、また貸出者数については前年度と比較しても、僅かではありますが2.6%増加しています。読書離れの傾向が進んでいる中ではありますが、移動図書館車の効果は大きいことから、事業の効果は「B」評価としています。事業の効率性につきましては、最低限の人員で窓口業務を行い、できる限りの経費削減を図っておりますので、「A」評価としています。				
今後の方向性	計画的に維持管理を行い、安心して利用していただける図書館施設で充実した図書館サービスを継続的に行っていくために、指定管理者制度の導入も含めて効率的・効果的な運営について検討する必要があります。				
令和2年度の課題	山田図書館特定天井改修設計に基づき、令和2年7月から改修工事を行います。安心して利用していただける環境づくりのためではありますが、少しでも読書環境が提供できるよう検討する必要があります。また、図書館システムの導入から7年が経過し、機器の老朽化やサポート終了等の問題も生じてくることから、図書館システム等のリプレースを行ってまいります。				
【評価委員の意見】 何冊借りただけでなく、内容などの調査を加えてはどうでしょうか。 電子書籍での貸し出しなども検討してみてください。 人員削減しても負担が増えるだけで、業務低下につながるのではないのでしょうか。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[4 6] 読書活動推進事業（生涯学習課：図書館係） (予算：3,018 千円 / 決算：2,800 千円)				
目的	おはなし会・講座・読書講演会等、市民の読書活動のきっかけづくりとなる事業を開催し、読書活動の推進及び図書館利用の促進を図ることを目的とします。				
事業内容	・ブックスタート事業・絵本ですくすく講座・定例おはなし会・赤ちゃんタイム ・朝の読書活動支援（小学校）・ブックトーク（小・中学校・土曜未来塾） ・おはなし工作会・夏休みイベント・一日図書館員・職場体験の受入れ ・らくらく読書会・読書講演会・映画会				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 他部署との連携を更に深め、図書館以外の場所でも幅広いテーマに沿った事業を行うことにより、これまで図書館を利用されていない方へも本に親しむきっかけづくりを図る必要があります。 【課題等への取組】 他部署と新たな連携事業を開催し、図書館以外の場所で読書事業を行うことにより、普段図書館を利用されていない方に対し、本に触れる機会を提供することができました。また、館内での特集展示コーナー等を設置することにより、継続的に読書への興味・関心を促すような働きかけを行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・おはなし会 1 回当たりの参加者数：12.4 人（教育アクションプラン目標値：13.0 人） ・読書講演会参加者数：93 人（教育アクションプラン目標値：55 人） ・ブックスタート配布率：100%（教育アクションプラン目標値：100%） おはなし会の平均参加者数は目標値をわずかに下回っておりますが、読書講演会は目標値を大きく上回る参加者であったことから、事業の効果は「A」評価としております。事業の効率性については、これ以上の経費削減は難しく、また他部署と連携を図ることにより、様々なテーマを設けて本に親しむ機会を提供できたことから「A」評価としています。				
今後の方向性	第 2 次子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの読書習慣の基礎が作られるよう、家庭や地域、学校と連携して取り組んでいきます。特に乳幼児期の読書習慣が重要と考え、継続した読書活動の涵養を図り、家庭や地域、学校図書館はもとより、他部署とも連携を深めながら本に親しむ機会を広く提供していきます。				
令和 2 年度の課題	読書習慣が作られるためには継続性が必要です。引続き関係機関との連携を深めながら、市内全体に読書活動の機運が高まるよう、効果的な事業内容を検討する必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[47] 図書ボランティア養成及び活動支援事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：65 千円 / 決算：8 千円)				
目的	図書館事業の推進に必要な図書ボランティアの養成、活動支援を行うことを目的とします。				
事業内容	新規ボランティアの養成及び既存ボランティアの支援並びに嘉麻市図書ボランティア連絡協議会の活動支援を行っています。 ・読書ボランティアスキルアップ研修 ・読書ボランティア養成講座 ・嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会開催支援等）				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 地域との協働による図書館運営に向けての様々な支援と啓発活動を行うことにより、図書館応援ボランティアの継続的な活動に向けての環境づくりを図る必要があります。 【課題等への取組】 図書館ボランティア養成講座として、前年に引き続き図書資料の装備や補修等の講座を開催し、講座を修了した方の中から図書館応援ボランティアにつなげることができました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・ボランティア養成講座参加者数：9 人（教育アクションプラン目標値：13 人） ・ボランティアスキルアップ講座参加者数：30 人（教育アクションプラン目標値：21 人） ・ボランティア活動参加者数：63 人（教育アクションプラン目標値 53 人） ボランティア養成講座は、参加者数こそ目標値を下回っておりますが、受講者から図書館応援ボランティアとして活動していただく方も増え、ボランティア活動参加者数の増加に繋がり、目標値も上回っていることから「A」評価としています。事業の効率性としては、ボランティア養成講座の講師を図書館司書が行っており、更なる経費削減を図ったことから「A」評価としました。				
今後の方向性	現在活動されているボランティアの皆様のご意見を伺いながら、ボランティア活動の充実を目指したスキルアップの機会を提供するとともに、市民との協働を図りながら図書館の各種事業を長期的に推進するために新規ボランティアの養成を目指します。				
令和2年度の課題	子どもの読書活動を促進するためには、ボランティアの皆様との長期的・継続的な協力が重要です、ボランティアの皆様が無理なくスムーズに活動できるよう、図書館として支援を続けていく必要があります。				
【評価委員の意見】 非常に大切な事業です。無理なくスムーズに活動できるよう、図書館としても支援をしていただきたいと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(1) スポーツによる地域の活性化

事業名 (予算/決算)	[48] スポーツコミュニティ創造事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：10,296千円 / 決算：6,574千円)				
目的	スポーツと健康運動を通じて、市民一人ひとりの潜在的能力の向上を図るとともに、地域における市民の主体的な活動を促進し、地域力が向上することを目的とします。				
事業内容	スポーツの社会的意義の重要性を広めるとともに、スポーツを通じた地域の主体的かつ継続的な取組みを促進するため次の事業を実施します。 ①スポーツ推進委員・指導者を派遣します。 ②スポーツに関する身近な情報を提供します。 ③スポーツサークルの設立を支援します。 ④誰もが参加できるスポーツ教室を開催します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 コミュニティ活性化事業実施団体の増加を図るとともに、団体の自主的な活動の促進が課題です。 【課題等への取組】 嘉麻市社会福祉協議会のふれあい・いきいきサロンだけでなく、敬老会など地域のイベントに出向き、軽スポーツを行うなど対象を拡充しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 国や福岡県のスポーツに関する計画においても、スポーツを通じた共生社会・健康長寿社会の実現が重要施策として位置づけられていますので、事業の必要性は「A」評価としています。コミュニティ活性化事業の拡充が図れたことと、18歳以上の女性を対象とした悩み解消トレーニング教室を開催し、トレーニングジムに通いづらいというイメージを払拭する機会を設けることができました。 事業効果・効率性も「A」評価としています。 ・スポーツ指導参加者数（目標値 900 人）：712 人（親子ふれあい運動教室 1 回 28 人、学童保育所出前講座：18 回 442 人、サロン出前講座：平日 13 回 154 人、土日 4 回 58 人、その他の派遣事業：2 回 30 人） ・嘉麻市スポーツ情報ホームページアクセス数（目標値 1,800 件）月平均 4,049 件 ・コミュニティ育成支援団体数（目標値 3 団体）：13 団体 ・各種教室参加者数（目標値 1,350 人）：824 人（健康運動教室：45 回 794 人、悩み解消トレーニング：2 回 30 人） ※人数は延べ人数				
今後の方向性	スポーツによる地域コミュニティの再生と活性化を目的として、引き続き地域に定着した取り組みを行うとともに、その推進役となるスポーツ推進委員と地域活動指導員を対象に研修を行うなど、指導スキルの向上を図ります。				
令和2年度の課題	コミュニティ創造事業や教室などの周知の見直しを行い、参加者が固定することなく、新規の参加者の拡充を目指します。				
【評価委員の意見】 ホームページは高齢の方は見る機会が少ないので、広報にサークル紹介等を載せてもらえるとういと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(1) スポーツによる地域の活性化

事業名 (予算/決算)	[49] スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算： — / 決算： —)				
目的	スポーツに関係する多くの人々が嘉麻市を訪れ、スポーツを行い、観るとともに地域の人々と交流し、本市の豊富な自然環境と観光資源に触れ、親しんで帰ってもらうことで、地域活性化につなげることを目的とします。				
事業内容	スポーツ大会やスポーツ合宿の機会を活用するため、関係機関と連携して特産品販売などPRの場を設け、交流人口の増加と地域の活性化につなげます。また、大会の支援を行い、市民の運営や企画への参加を促します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 ポスター掲示やHPに掲載する等広報活動の充実に努めます。またあわせて、関係機関と連携を強化し、地域の活性化を図っていくことが課題です。 【課題等への取組】 スポーツ大会開催の際には施設にポスターの掲示等を行いました。またスポーツ大会開催の際に、お弁当の斡旋を行ったほか、11月3日に開催された九州高等学校駅伝競走大会福岡県予選大会の支援を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 スポーツ大会や合宿の誘致、スポーツ大会の支援は、市民にスポーツを「観る」機会を提供し、スポーツへの興味や理解を深めることで、市民がスポーツに参加「する」契機となる役割を果たす必要性の高い事業です。また、大会、合宿の誘致や大会の支援を行うことによって、交流人口の増加や地域に経済波及などの効果をもたらし、スポーツを通じた地域づくり、地域の活性化に繋がることが期待できます。令和元年度は、平成30年度に引き続き12月8日に開催されたFリーグ、ボルグバレット北九州の試合をはじめ、県リーグを中心としたフットサル大会、テコンドー大会、九州高等学校駅伝競走大会福岡県予選大会等のスポーツ大会や、陸上、サッカーの合宿を誘致した結果、交流人口は13,043人、大会参加者数は8,275人となり、目標とする大会・合宿による市外利用者数（交流人口）12,000人、支援大会の参加者数7,700人を上回りました。				
今後の方向性	市民のスポーツ観戦・参加の機会を拡充するため、九州大会及び県大会レベルのスポーツ大会や合宿の誘致を積極的に行い、交流人口の増加と地域の活性化に努めていきます。				
令和2年度の課題	スポーツ大会や合宿誘致について、関係団体への働きかけと施設の情報提供を広く行うこととあわせて、宿泊施設等と連携し、さらなる交流人口の増加に努めます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(2) スポーツ環境の整備

事業名 (予算/決算)	[50] スポーツ環境創成事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：449千円 / 決算：449千円)				
目的	家庭や学校、自然の中など身近な場所での運動を進め、「市内のいたるところがスポーツ環境であること」という意識改革を目的とします。				
事業内容	自然豊かで文化性に満ちた市内の環境を再発見するとともに、ジョギング、ウォーキングなどの手軽な運動に最適な運動環境を整備し、情報提供を行うことで市民の利用を促進します。 また、子どもの成長を促し心に刺激を与えるような環境づくりを目指し、全国でも例のないアイデアに満ちたスポーツ環境施設を創成します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 イベントだから歩くのではなく、日常的に習慣化できるような仕掛けをつくるのが課題です。安全なウォーキングコースの増設を図るとともに、市内の都市公園等においてもウォーキング等ができるよう、案内看板の設置、情報提供の充実を図ることが必要です。 【課題等への取組】 山野運動公園に荒木徳島大学名誉教授監修のウォーキングコース案内看板を設置しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 アンケートによると市民の30%は「スポーツをしていない」と回答しています。その内、50%は「時間不足」、30%は「機会不足」と回答しています。また、社会体育施設の利用者の固定化を解消するためにも、身近な場所で簡単に行える運動の機会の提供は重要であり、必要性はA評価としています。新たなコースによるウォーキングイベントを山田地区にて開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止となりました。 嘉穂地区・山田地区に続き、今年度は稲築地区の山野運動公園にウォーキングコース案内板を設置しました。ウォーキング人口の増加を図るためには更なる環境の整備、情報提供の充実が必要ですので、事業の効果・効率性はBとしています。 ・スポーツ情報ホームページにおける軽運動等の情報掲載件数（目標値2件）：17件 ・脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会の開催件数（目標値2回）：5件 ・ジョギング・ウォーキングコース設定件数（目標値2件）：1件 ・ジョギング・ウォーキングイベント回数（目標値2回）：0回※新型コロナにより開催中止				
	今後の方向性	新たなウォーキングコースを発掘し、身近な場所で簡単に行える運動の機会を提供するため、引き続きウォーキング等のコースを作成し、情報の提供を行います。また、歩数管理できる「ふくおか健康ポイントアプリ」の活用などを呼びかけます。			
令和2年度の課題	イベント参加者の増加ではなく、ウォーキング人口が増加するような取り組みが必要です。				
【評価委員の意見】 ふくおか健康アプリがうまく利用できるようにできたらいいと思います。 公園も少ないので、自然を活かした遊び方等、一緒にできることを期待しています。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(2) スポーツ環境の整備

事業名 (予算/決算)	[51] 社会体育施設管理運営事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算：155,275千円 / 決算：150,646千円)				
目的	市民のニーズに応じた、より快適なスポーツ活動の場を提供することを目的としています。				
事業内容	スポーツ施設の効果的かつ効率的な管理運営と、市民ニーズに対応するため施設の整備などの検討を行い、適正化を図ります。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 施設全体の老朽化が進んでいるため、利用状況を踏まえながら施設ごとの修繕計画を作成する必要があります。 【課題等への取組】 サルビアパーク、スイミングプラザなつきの指定管理施設の老朽箇所について修繕費用等の整理を行い、10年間の修繕計画の見直しを行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 社会体育施設は、市民の誰もが身近に楽しみながら、健康づくり、体力作りができるスポーツ活動の拠点施設として効果的であり、またスポーツによる交流人口を生み出す必要性の高い事業です。令和元年度の体育施設の利用者数は386,502人と目標の418,000人を下回りました。 施設の管理については、平成28年度に用途廃止を行っていた碓井青少年センターの解体工事をはじめ、スイミングプラザなつき授乳室パーテーション設置工事、サルビアパーク濾過ポンプ整備等を行いました。				
	今後の方向性	施設の適切な補修・改修効率的な運営を行うことで、市民が身近に安心してスポーツ活動行える場所を提供し市民の健康増進を図るとともに、スポーツ施設の情報発信を行い地域の活性化に努めます。			
令和2年度の課題	施設全体の老朽化が進んでいるため、利用状況を踏まえながら引き続き計画的に補修、修繕を行っていく必要があります。				
【評価委員の意見】 施設の利用予約を、インターネットで予約ができるといいと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し

■主要施策 5 体力及び運動能力向上の推進

(3) 生涯スポーツの推進

事業名 (予算/決算)	[52] プロジェクトK事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：5,700千円 / 決算：4,307千円)				
目的	乳幼児から高齢者、障がい者に至るすべての市民を対象に、脳科学、認知科学などに基づいたコーディネーショントレーニングを導入することにより、体力・運動能力の発達だけでなく、知的能力の発達、情緒的な安定や創造性豊かな人格形成等を図ることを目的とします。				
事業内容	すべての市民に対応できるコーディネーショントレーニングのプログラムを構築し、その普及を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 小学校教員が主体的に取り組むことができるよう、新学習指導要領体育編に基づいたコーディネーショントレーニング指導書の作成を行います。 中学生から高齢者、障がい者までの階層に対するトレーニングの普及を行います。 【課題等への取組】 指導書作成にあたり、小中学校の教員と意見交換会を3回実施しました。今後、荒木徳島大学名誉教授監修のもと、資料を作成し、市内小中学校に配布します。また、スポーツくじ助成金を活用し、荒木徳島大学名誉教授監修のもと、気軽にできるコーディネーショントレーニングポスターとマイナス1オプログラムを取り入れたガイドブックを作成しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 本事業はコーディネーショントレーニングを全ての市民に普及することにより、人材育成、さらには地域の活性化に繋げる全国でも類を見ない取組みです。特に子どもに対する教育施策の充実、過疎化が進む本市において、定住人口の増加を目指す上で最重要事項ですので、事業の必要性は「A」評価としています。指導書については、教員の現場の声を取り入れた意見交換会ができ、令和2年度の継続事業としました。ポスターについては回覧文書にて全戸配布し、ガイドブックについては、母子健康手帳の受け取りの際に渡せるように子育て支援課と連携しました。事業効果を「A」、効率性は「B」評価としています。 ・コーディネーショントレーニング指導者研修会受講者数（目標値 375 人）：98 人 ・乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率（目標値 100%）：65%（11/17） ・小学校コーディネーショントレーニング導入校数（目標値 8 校）：8 校 ・中学校コーディネーショントレーニング導入校数（目標値 3 校）：1 校				
	今後の方向性	コーディネーショントレーニングの普及は、各階層の指導者の育成を基本とします。引き続き、研修会を受講した指導者が継続的に、かつ個別課題に応じて実践できるような取組み、また、指導者相互のネットワーク構築を図り、コーディネーション理論とスキルの向上を目指す取組みを推進します。			
令和2年度の課題	小学校教員が主体的に取り組むことができるよう新学習指導要領体育編に基づいたコーディネーショントレーニング指導書の作成。 中学生から高齢者、障がい者までの階層に対するトレーニングの普及。				
【評価委員の意見】 プロジェクトKは、とても期待しているので、ぜひ頑張って広げていただければと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 5 体力及び運動能力向上の推進

(4) 競技スポーツの推進

事業名 (予算/決算)	[53] 競技スポーツ推進事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：9, 835千円 / 決算：7, 974千円)				
目的	誰もが、自らの目標に即してスポーツ競技力を伸ばそうとするスポーツ文化を広めるとともに、小・中・高校生からの優れた体力・運動能力、さらには運動学習能力、潜在的能力を豊かに伸ばしていくことを目的とします。				
事業内容	・ 公的な各種スポーツ競技大会を開催します。また、子ども達を対象に、普段、経験したことのないスポーツ体験会を開催します。 ・ スポーツに関心を寄せ、楽しさを見い出すトップアスリートとの交流会を開催します。子ども達のタレント発掘と競技力育成に関わる事業を展開し、全国や世界で活躍できるスポーツ選手の育成に取組みます。 ・ スポーツ指導者、スポーツ推進委員、教員、保育士、一般市民を対象にした身近なスポーツ科学、運動科学、栄養学、コーディネーショントレーニングなどに関する学習会、研修会を開催します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 子どもの競技力向上と指導者の発掘・育成を図るため、荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室を引き続き実施し、事業内容の充実を図ることが必要です。 【課題等への取組】 小学3・4・5年生を対象とした荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 競技スポーツの発展は、市民のスポーツへの関心や参加意欲を促し、市のスポーツ振興に大いに貢献するものと考えられますので、事業の必要性はA評価としています。荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室は、3年生9人、4年生6人、5年生7人が計18回、基礎的なトレーニングを始め、テニス、水泳、バレーボール競技のトレーニングを受講しました。受講した子ども達の競技力の向上及び事業を通じた指導者の育成につながる事が期待されます。 事業の効果をA、効率性についてはB評価としています。 ・ 未経験の競技体験会（目標値2回）：2回（ボルダリング教室19人他） ・ 競技スポーツ教室（目標値2回）：1回（SOMPO ボールゲームフェスタ190人） バスケットボール教室については、講師である橋本選手が北海道へチーム移籍したため開催中止となりました。 ラグビー教室については、コカ・コーラレッドスパークスの選手を講師に招いた教室を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。 ・ スポーツ指導者等研修会（目標値10回）：5回98人 ・ ※人数は延べ人数				
	今後の方向性	競技人口の増加を目指し、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高める事業を推進するとともに、子どもの競技力向上を目指した事業を推進します。			
令和2年度の課題	荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室については、3年間試行しましたので事業総括を行い、今後の取り組みについて検討します。また、競技スポーツ教室については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの重要性などを十分に考慮し、企画します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[54] 人権・同和教育推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算： - / 決算： -)				
目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。				
事業内容	学校における人権教育の指導の充実を図ります。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 昨年度実施したアンケートの結果を踏まえ、教職員の人権問題、同和問題に対する認識を深め、すべての人の基本的人権を尊重する教育活動を推進することができるよう、全教職員を対象にした研修会を実施します。また、教科や領域の中で児童生徒の意識が高まるような授業づくりを推進します。 【課題等への取組】 部落問題解消に対する教職員の認識を深めるために、人権・同和教育研修会を実施しました。また、若年教員研修(1年目)や校内研修の際に、人権意識を高めるための授業づくりについても指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 各学校での人権・同和教育全体計画の改善・実施の目標値に対して、13校実施できており、目標を達成することができました。各学校ともそれぞれの課題解決に向け、人権教育の全体計画に基づき、人権・同和教育の推進に努めました。 また、人権・同和教育研修会の実施(市全体)1回の目標値に対して、平成30年度に実施したアンケートの結果をもとに、同和問題や個別の人権課題について深める研修を実施することができ、目標値を達成することができました。				
今後の方向性	学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう進めます。				
令和2年度の課題	今後も、教職員の人権問題、同和問題に対する認識を深め、すべての人の基本的人権を尊重する教育活動を推進することができるよう、全教職員を対象にした研修会を実施します。また、教科や領域の中で児童生徒の意識が高まるような授業づくりを推進します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[55] 人権・同和教育推進事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算：2,078千円 / 決算：1,915千円)				
目的	部落問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者、性的少数者等に対する人権課題を解決し、人権尊重社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するとともに、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地域研修会、団体・サークル等研修会、企業内人権・部落問題研修会を実施します。また、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。				
事業内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・部落問題研修会を実施し、人権・部落問題に関する意識の向上を図っています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 日常においてお互いの人権を認め合い、人権問題への理解を深めていく必要があります。また、市民の要望に応じた研修内容等の工夫や、あらゆる年齢層の人権に関する多様な学習機会の充実を図る必要があります。 【課題等への取組】 市民に向けた人権・部落問題研修会を継続開催しました。加えて中央公民館係と連携し、周知と学ぶ機会の充実を図りました。また、市民の要望に応じた個別の人権課題に関する研修資料等を作成するなど学習内容の工夫改善に努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 人権・同和教育指導員が研修内容を分かりやすく工夫改善しながら、行政区や団体・サークル等、さらに各地区公民館と連携し、研修会を継続実施したことにより、目標値を上回る25回の開催数となりましたが、新型コロナウイルス拡散防止対策による市内事業主研修会や地域研修会等が中止となりました。 総体的にこれまでの取り組みにより研修会等は定着してきており、加えて公民館分館事業の「ときめき学習」や小学校のゲストティーチャー等として、子ども達への人権学習も行っております。 【主な取組み】・人権・部落問題地域研修会 8行政区 126名 ・企業・団体等人権研修会 14団体 377名				
	今後の方向性	市民一人ひとりが部落問題をはじめとする様々な人権問題について、自らの問題として捉え、正しい認識や理解、判断力を身に付けることの大切さが伝わる学習会や研修会を様々な機会を捉えての開催に努めます。			
令和2年度の課題	社会における人権問題全般についてはもちろんのことですが、身近な人権に対する関心を高めていくことが必要であります。部落問題をはじめ様々な人権問題の研修内容等の工夫と学習機会の充実を図る必要があります。				
【評価委員の意見】 研修会は目標値を上回る開催数で非常にうれしく思います。大事なことです。これが少しでも増えるように、さらに頑張ってくださいと思います。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[56] 人権・同和教育推進少年団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：3,000千円 / 決算：3,000千円)				
目的	人権感覚の涵養と差別をなくしていこうとする子どもの育成を図るため、解放子ども会を支援し、解放子ども会に参加する一人ひとりが、人権・部落問題について正しい認識と理解を深める活動を推進します。				
事業内容	部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業に、嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程に基づき補助金を交付します。 学習活動を学校と協議、連携し支援しています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 関係団体等と情報共有を行い、子どもたちの人権感覚が高まる活動となるよう継続して、小・中学校と協議、連携し取組む必要があります。 【課題等への取組】 事業展開については、小・中学校と協力しながら、子どもたちの部落問題についての正しい認識と理解が深まる活動となるよう支援を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 活動を通じて、子どもたちの人権・部落問題についての正しい認識と理解を深める一定の効果があったと認識しております。 解放子ども会事業に補助金を交付するだけではなく、関係団体等と情報共有を図り、小・中学校と連携し、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう注視していきながら支援を行ないました。しかしながら、学習内容の一層の充実が図られるよう、支援方法については今後も検討していく必要があります。				
今後の方向性	部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業において、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるように図るため、継続支援を行っていきます。				
令和2年度の課題	子どもたちが部落問題学習で学んだことや感じたことを通じて、自分なりの考えが持てるような深まりある学習活動となるよう、継続して小・中学校と協議、連携し取組む必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[57]人権・同和教育推進団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：3,357千円 / 決算：2,694千円)				
目的	解放学級及び日常生活で文字の読み書きに不自由している人々を対象にした識字学級を開催し、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深める学習や学級活動を推進します。				
事業内容	稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級を開催し、人権・部落問題についての学習を行うとともに、碓井地区においては、識字学級を開催することにより文字の読み書き学習を支援しています。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 学級生の自主的・主体的な学習活動を学校や学級代表者と協力して支援を行い、地域のニーズを掘り起こし、学習内容の工夫・充実を図る必要があります。 【課題等への取組】 学校と協力を図り、地域住民の自主的・主体的な学習活動の支援を行いました。また、学習内容については、学級生と共に計画等を行うことで、自らの学習意欲が高まり理解が深まることに繋がっています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 解放学級及び識字学級を開催することで、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深めることが出来ました。しかし、目標値である学級数より1学級減となったことは、どの地域においても起こり得ます。そのため、学級生自らが指導員と共に学習計画等を行うよう効果的な支援をしてきました。そのことで、より学習意欲を高め、お互いの心の繋がりを深めていきました。識字学級においては、様々な教材を活用し、学級生それぞれが学習内容を深めることが出来るよう支援を行い、学習の場と機会の確保を図ることが出来ました。そのことが、日常生活に即した学びに繋がっています。				
今後の方向性	社会の変化に伴い多様化する厳しい差別の現実には打ち克つ力を身に付けるため、一人ひとりが継続して自ら気づき、考え、行動する力を培う学習活動を継続して支援します。				
令和2年度の課題	学級生の自主的・主体的な学習活動を今後も継続的な支援をする必要があり、学校や学級代表者と情報共有を図りながら、部落問題をはじめとする様々な人権問題等の学習内容について、更なる工夫・改善を図る必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[58] 文化芸術活動推進事業（生涯学習課：美術館係） (予算：ー / 決算：ー)				
目的	市民が美術館を身近なものに感じ、文化芸術作品の鑑賞・創作する機会及び展示発表に活用できる場の充実を図ります。				
事業内容	主体的な活動を行う美術団体などの展示活動を支援し、人々に様々な芸術鑑賞の機会を提供しています。 また、アトリエでの創作活動を支援するとともに、学校や地域と連携し、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動を支援します。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 今後も学校や公民館に美術館の活用を呼びかけ、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動の充実を支援します。 【課題等への取組】 各地区公民館や分館に呼びかけ、「ときめき学習」や子どものイベント会場で創作の場を設け、自分で想像し、工夫し、作品をつくる楽しさを体感してもらいました。また、学校などに遠足に合わせての作品鑑賞を呼びかけました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・貸館展入館者数：7,215人（目標数値：5,250人） ・貸出用展示室利用団体数：10団体（目標数値：10団体） ・市民アトリエ利用団体数：11団体（目標数値：12団体） ・美術館を活用した学校数：5校（目標数値：9校） ・地域等での活動支援回数：11回（目標数値：4回） 様々な作品の鑑賞・創作の機会及び展示発表の場の充実を図り、文化芸術活動を推進する必要があるため、事業の必要性は大きいと考えます。 事業の成果としましては、貸展示室は個展、パッチワーク展、書道展、市文化芸術祭、文化祭、琴平美術展覧会や児童画展、中学校総合文化祭美術文化作品展など、様々な作品を鑑賞することができ、また、公民館事業の「ゆめまつり」「ときめき学習」等では子どもたちの創作体験を支援、加えて高齢者介護課事業のオレンジサロンとも連携するなど効果的な活用が図られました。 なお、効率性では、今後も学校に鑑賞学習の場としての美術館の活用を呼びかける必要があるため「B」評価とします。				
今後の方向性	継続して人々の展示活動や学びを支援し、芸術作品鑑賞と学びの機会を提供します。また、学校や地域などと連携協力し、子どもたちの鑑賞学習や創作活動を支援します。				
令和2年度の課題	学校の出前授業などで活用できるメニュー作成に取り組む必要があります。				
【評価委員の意見】 美術館があることで、子どもたちが美術に触れ合うことができていると思います。目標値を達成できるように、今後も頑張っていたきたいです。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[59] 美術館運営管理事業（生涯学習課：美術館係） (予算：38,403千円 / 決算：35,573千円)				
目的	市民が文化芸術活動や憩いの場として、美術館及び公園を快適かつ安心して利活用できるよう、施設などの維持管理及び運営を行うとともに、美術館並びに実施事業の周知を図ります。				
事業内容	美術館及び隣接する公園の維持管理を図るとともに、適切な環境の中で収蔵、展示作品の保存管理を行います。				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 今後も継続して施設及び収蔵展示作品の維持管理に努めるとともに、施設の運営管理についても検討が必要です。 【課題等への取組】 継続した維持管理、空調設備の調整と修理、虫菌害防止の取組、収蔵庫の燻蒸、作品修復などにより施設及び収蔵展示作品の維持管理に努めました。 収蔵作品データを整理し、作品の把握を行いました。収蔵作品の保存と活用を図るため、美術品収蔵庫について業者と協議を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・入館者総数：12,286人（目標数値：13,900人） ・貸出用展示室及び市民アトリエ貸出時間：841時間（目標数値：710時間） 美術館や公園を快適かつ安心して利用でき、また展示収蔵作品を適切に維持管理する必要があるため事業の必要性は大きいと考えます。 展示室では作品鑑賞や作品展示、小学校などの鑑賞学習でも活用され、アトリエでは創作活動などに、また、芝生公園は人々の憩いの場となり、学校遠足の利用や嘉麻ふれあいまつりの会場として開放し、美術館のPRにも繋がっています。 また、絵画の適正な保管として虫菌害侵入防止の取組や収蔵庫の温湿度調整に努めるとともに、今後の作品保存と活用のため美術品収蔵庫の先進地視察を行いました。また収蔵作品の修復やデジタル撮影を行い、作品の保存と活用を図ることが出来ました。 総体的な来館者については、企画展入館者数減少により入館者総数が目標数値に達していないため、事業の効率性は「B」評価としました。				
今後の方向性	継続して、美術館並びに公園の運営・維持管理と展示収蔵作品の保存管理に努めます。安定した運営を図るため、人材確保について、指定管理者導入についても検討が必要です。				
令和2年度の課題	適切な管理運営に向けて、今後の方向性を明らかにすることが必要です。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[6 0] 企画展事業（生涯学習課：美術館係） (予算：3,830千円 / 決算：3,739千円)				
目 的	著名な作家や郷土ゆかりの作家の作品展示及び優れた芸術作品の鑑賞機会を提供することにより、こころ豊かな感性を育み文化の向上を図ります。				
事業内容	花村えい子と漫画（7月20日～8月25日：29日間） 馬場さおり写真展（9月28日～10月20日：20日間） 第75回福岡県美術展覧会筑豊展（10月29日～11月17日：18日間） 第3回アートキッズ展（12月14日～1月26日：31日間） 春のコレクション展2020（2月29日～3月31日：27日間）				
令和元年度の 課題と 取組	【課題等】 例年、同じ部門の展示となる県展では、周知方法の再考が必要です。 【課題等への取組】 今年度もポスターやチラシのデザインを改め、広報や新聞、ホームページ、SNS等で幅広く事業の周知に努めるとともに、県展実行委員や関係団体にもポスター、チラシを配布し、幅広く周知をお願いしました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 ・特別企画展入館者数：2,674人（目標値：4,450人） ・企画展入館者数：159人（目標値：560人） 美術館として、市民に優れた芸術作品を鑑賞する機会を提供する事業の必要性は大きいと考えます。 特別企画展の花村えい子と漫画では幅広い年齢層が原画等を楽しみ、また関連企画として実施したファッションショー、ジャズコンサートや塗り絵コンテストには多くの参加がありました。加えて健康課と連携した写真展関連事業、馬場さおり講演会（市ガン検診啓発事業）は満席となり、アートキッズ展では、織田廣喜などの収蔵作品に関連した創作作品を展示し、県展筑豊展合評会では創作活動をしている人々が解説に傾聴しました。 企画展の春のコレクション展では、旅をテーマに織田廣喜他3名の収蔵作品を公開し、旅のフォトエッセイコンテストの作品をサロンに展示し、来館者からは好評を得ておりますが、些かPR不足の感もありました。 企画展は、概ね良好であったと考えますが、全体的に周知不足は否めず、効率性としては課題が残りました。				
	今後の 方向性	幅広い世代の人々が楽しめる企画展を開催するとともに、収蔵作品を活用したコレクション展を充実させ、事業の周知を図ります。			
令和2年度の 課題	幅広い世代の人々が楽しめる企画展の検討と、収蔵作品を活用したコレクション展を充実させるとともに、事業の周知に努める必要があります。				
【評価委員の意見】 PRに関しては、もっと広く新聞やテレビでやってもらえたらいいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[61] 美術教育普及事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：282千円 / 決算：217千円)				
目的	楽しみながら創作活動を行う機会や場の提供を行い、芸術への興味を深め、豊かな感性と表現力を育むなど美術教育の充実を図るとともに、子どもたちの美術活動の充実と、美術館の活動に関わる美術館ボランティアの活用を図ります。				
事業内容	美術館講座の開催 ・アートキッズ 全14回(6月～2月) 小学生 受講生22人 ・近畿大学連携事業 2日間(10月) 小学生 受講生8人 ・美術講座 全3回(10月・11月) 18歳以上 受講生26人 ・はじめての鉛筆画 全4回(12月・1月) 18歳以上 受講生10人 ボランティア事業(会議、研修会、教育普及事業の学習補助) 登録者9人				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 講座は準備から実施に至るまで多くの時間を有します。他に地域での事業も実施しているため、今後、内容をどうするか検討を要します。 【課題等への取組】 地域での事業開催に向けては、受け入れ側スタッフと事前打合せを行い、当日は子どもたちの創作活動のサポートをお願いしました。内容についても、低学年でも楽しく創作活動ができるよう配慮しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・延べ受講者数：293人 (目標値：400人) ・講座数及び講座日数：4講座 21日 (目標値：2講座 21日) ・ボランティア登録者数：9人 (目標値：10人) 芸術へ興味と関心を抱き、創作により豊かな感性と表現力を育むなど美術教育の充実を図る機会として必要なので、事業の必要性は大きいと考えます。 講座は総体的に定員を上回る応募がありました。アートキッズ事業では収蔵作品を活用した様々な創作活動により、画力や創作意欲が高まり保護者も子どもたちの変化を実感していました。美術館ボランティアの他に高校生、大学生の支援を受け、効果的な体験プログラムが提供できたものと考えます。 近畿大学連携事業では嘉麻市の自然と歴史、風土にそった個性豊かな妖怪を想像し創作しながら、個性豊かな感性を育むことができました。また、美術講座では、織田廣喜の生きた時代背景を学びながら、作品を鑑賞し織田廣喜について深く学ぶことができました。鉛筆画では、鉛筆1本で表現する面白さを体験し、観察力を磨き、成果を琴平美術展覧会に出展し、学び合うことができました。 効率性としては、近畿大学との連携事業が前回同様、募集定員に達せず再募集をかける状況であったことから「B」評価としました。				
今後の方向性	今後も芸術への興味を深め、豊かな感性と表現力を育む機会を設け、美術教育の充実に努めます。				
令和2年度の課題	今後も実技だけでなく、織田廣喜など収蔵作品と関連した講座内容の検討が必要です。				
【評価委員の意見】 大学との連携事業は、内容的にはちょっと難しかったようです。もう少し簡単な内容がいいのではと思いました。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[6 2] 郷土の歴史文化を守る事業（生涯学習課：文化財係） (予算：6, 8 7 3 千円 / 決算：6, 3 8 8 千円)				
目 的	市内に残る多様な文化財を郷土の「たから」として後世に伝え、適切な活用が図れるように、文化財の保護管理に努めることを目的とします。				
事業内容	・文化財保護審議会の運営 ・指定文化財等の維持管理 ・指定文化財への補助金交付 ・埋蔵文化財の事前審査 ・各種文化財の調査				
令和元年度 の課題と 取組	【課題等】 文化財の保護と活用にかかるマスタープランの策定が課題です。 【課題等への取組】 マスタープランでは、指定文化財・未指定文化財を含む地域の文化財について、一体的な保護と活用が望まれます。本年度は、所在地が不明となっている未指定文化財の調査を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 ・文化財保護審議会の開催：1 回（教育アクションプラン目標値：3 回） ・指定文化財等の維持管理：4 件 ・指定文化財の補助金交付：3 件 ・埋蔵文化財事前審査：書類審査 149 件、工事立会 11 件、試掘調査 2 件 ・嘉穂地区遺跡群の出土品再整理 2, 621 点及び写真・図面類のデジタル化 ・未指定文化財等の調査：「太閤地蔵」の所在地を確認 文化財保護審議会が新型コロナウイルス感染症の影響により 1 回しか開催できませんでしたが、他の事業については予定通りに実施できましたので、事業の効果は「B」評価、しかし、課題であるマスタープランの策定については、未指定文化財の調査成果はみられたものの、教育アクションプランの指標通りに進まず、事業の効率性は「C」評価としました。				
	今後の 方向性	旧市町間での文化財保護にかかる格差が解消されていない現状を踏まえ、中長期的な保存活用計画を策定し、計画に基づいた文化財保護行政を行います。			
令和 2 年度 の課題	国指定重要文化財「華文刺縫陣羽織」の一時移管が課題です。				
【評価委員の意見】 ぜひ、P R や地域の観光等に活かしていただきたいと思います。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[6 3] 郷土の歴史文化を伝える事業（生涯学習課：文化財係） (予算：2, 9 3 8千円 / 決算：2, 8 2 7千円)				
目 的	市内に残る多様な文化財の活用を図り、郷土への誇りと愛着を培うとともに、郷土の歴史・文化のPRに努めることを目的とします。				
事業内容	・ 沖出古墳特別公開（春・秋）：4/20・21、10/19・20 ・「語り、伝える 戦争の話」（第8回）：8/3 ・ 古代史シンポジウム「沖出古墳とその被葬者像」：2/22 ・ 歴史ボランティアの育成 ・ 団体、学校などへの学習支援・講師派遣等				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 歴史ボランティアの育成が課題です。 【課題等への取組】 令和元年度は、歴史ボランティアサークルを7月に立ち上げ、座学4回、現地視察1回の研修を行いました。令和2年度は、引き続き研修を実施すると共にサークルの年間活動計画を立て、活動をさらに充実します。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・ 沖出古墳特別公開：320名（教育アクションプラン目標値：300名） ・「語り、伝える 戦争の話」：45名（教育アクションプラン目標値：40名） ・ 学習支援・講師派遣等：21件（教育アクションプラン目標値：25件） ・ 古代史シンポジウム：参加申込者193名（募集人数：200名） 古代史シンポジウムが新型コロナウイルス感染症の影響で、開催中止となりましたが、主催事業を絞って実施したことで、広報等も効率よく実施でき、事業参加者等も教育アクションプランの目標値を上回ることができました。				
	今後の方向性	主催事業を抑える代わりに、市民活動や学校教育等への学習支援・講師派遣を充実していきます。			
令和2年度の課題	歴史ボランティアサークル活動の充実が課題です。				
【評価委員の意見】 とてもいい事業だと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[6 4] 郷土の歴史文化拠点施設活用事業（生涯学習課：文化財係） (予算：9, 2 6 2 千円 / 決算：9, 0 3 2 千円)				
目 的	効率的な施設運営を図り、学校教育及び社会教育並びに郷土の歴史・文化のPRに貢献することを目的とします。				
事業内容	・ 歴史民俗資料展示・保管施設（4 館 2 室）の維持管理 ・ 収蔵資料（埋蔵文化財を除く）の台帳整備 ・ 収蔵資料の貸出・模写等（画像資料の利用） ・ 寄贈資料の受け入れ ・ 施設統廃合に伴う資料整理と資料移管				
令和元年度の課題と取組	【課題等】 嘉穂ふるさと交流館収蔵資料の移管先を検討する必要があります。 【課題等への取組】 第 3 次嘉麻市行政改革実施計画を踏まえ、令和 2 年度（平成 32 年度）の施設廃止に向けて、収蔵資料の整理等を行ってきたところですが、市の財政状況により、市内公共施設の全体的な見直しが流動的となっているため、具体的な移管先の検討までには、至りませんでした。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 ・ 歴史民俗資料展示・保管施設（3 館）の利用者数：2, 774 名 ・ 収蔵資料の台帳整備：532 点（教育アクションプラン目標値：300 点） ・ 資料貸出件数：15 件 資料模写等（画像資料の利用）件数：11 件 ・ 寄贈資料件数：1 件 ・ 稲築ふるさと資料室の施設廃止に伴う資料移管 収蔵資料の台帳整備もアクションプラン目標値を超え、稲築ふるさと資料室の資料移管も予定通りに実施できたことなどから、事業の効率性は「A」評価としました。しかし、施設見直しに課題を残し、事業の効果については「B」評価としました。				
今後の方向性	現在の組織体制に見合った規模の施設とするために、施設の統廃合及び機能の見直しについて検討します。				
令和 2 年度の課題	碓井郷土館収蔵資料の整理が課題です。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し

5. 全体評価結果

(1) 全体評価結果

事務局の自己評価と点検評価委員の意見を踏まえた教育委員会としての評価結果は、下記のとおりとなりました。(全64事業)

	前年度 教育委員会評価		本年度 教育委員会評価
A：期待どおり	46事業 (71.9%)	⇒	46事業 (71.9%)
B：概ね期待どおり	18事業 (28.1%)	⇒	18事業 (28.1%)
C：課題あり	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)
D：事業の見直し要	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)

評価の方法は事業完了度ではなく、目標達成度及び第三者評価の観点から総合的に評価を行いました。また、今後の方向性及び令和元年度の課題につきましても、あわせて検討しました。

本年度の評価は、期待どおりの「A評価」が71.9%、概ね期待どおりの「B評価」が28.1%、課題ありの「C評価」及び事業の見直し要の「D評価」はありませんでした。内容は、「B評価」から「A評価」となった事業が4事業、「A評価」から「B評価」となった事業が4事業あり、前年度同様の結果となりました。

評価が向上した事業の傾向としては、当該年度の目標値が達成できたことはもちろんのこと、事業の効率化が図られたことが、大きな要因であると考えられます。

また、評価が低下した事業の傾向としては、当該年度の目標値が達成されなかったことが、要因の一つとして考えられるため、原因を分析し、課題解決に向けた取り組みが必要であると考えます。

(2) 主要施策ごとの評価及び課題

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

「少人数指導推進事業」の取組により、小学校において、標準学力検査（NRT）における平均偏差値は、平成26年度以降は標準偏差値50を上回り、3年連続で51を上回っています。中学校においても、標準学力分析検査の結果は年々上昇しており、標準偏差値50に対して「-1.4」でした。また、全国学力・学習状況調査においては、全ての教科において全国平均正答率を上回る学校はありませんでしたが、平成22年度以降すべての教科区分で数値が上昇し、全国平均との差を縮めています。しかしながら、学校間や学年間、学級間の格差がみられることから、今後は、嘉麻市学力向上全体構想における具体策の浸透、徹底を図っていく必要があります。

「嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業」においては、学力向上推進員の学校への指導及び支援体制を継続していきます。また、嘉麻市土曜未来塾では、通塾した

児童生徒の保護者からの「自宅で勉強する習慣がついた」、「勉強する時間が増えた」などのアンケート結果から、家庭学習の習慣化ができつつあります。さらに、土曜未来塾で学ぶ児童生徒の様子が、塾の運営にあたる学力向上推進員の学校への指導と関連付けられ、効果的な教育活動を展開できる土壌が培われています。今後も、児童生徒のさらなる参加を促すとともに、個に応じた学習支援により、学力の基礎基本の定着と家庭学習の習慣化を図ります。

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

「特別支援教育総合推進事業」や「補助教員配置事業」については、適切な人員配置により、児童生徒の教育的ニーズに応じた支援や指導が図られています。今後ますますその必要性が増えていくことが予想されますので、配置した人員の効果的な活用について工夫していくとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、通常学級と支援学級との連携した支援の充実を図る必要があります。また、特別な支援を要する幼児・児童の早期発見・早期対応に向けた子育て支援課との連携をさらに充実させ、一貫した継続性のある支援に向けた巡回相談と子育て支援課の就学相談窓口の機能化を図ります。

「情報教育推進事業」では、児童生徒の情報活用能力の向上を図るためのICTを活用した授業改善が図られてきました。さらに、新学習指導要領の内容であるプログラミング教育や情報モラル教育など、これからの情報教育について意識を高めることができました。今後は、児童生徒の情報活用能力向上に繋がる授業づくりの研修実施と授業支援が必要となります。

「小中連携・一貫教育研究事業」については、小中一貫教育の実施に向け、先進地視察による情報収集や教職員対象の研修会を実施しました。今後は、小中一貫教育及び義務教育における教育カリキュラム作成に向けた組織づくりを行う必要があります。

「学校施設整備事業」については、安全・安心な教育環境を整備するために重要な事業であり、効率的な維持管理が可能となる小中一体型校舎を整備するため、優先度の高い碓井中学校区、稲築中学校区及び稲築東中学校区の施設整備計画を策定しました。今後は、この3中学校区の施設整備事業の早期着手と義務教育学校開校に向けた準備作業に着手してまいります。

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

不登校問題等の解決に向けた体制の充実を図るため、「教育相談推進事業」や「学校支援相談員配置事業」を実施し、不登校傾向の児童生徒に対する早期対応や関係機関との連携協力による組織的な取組により、不登校の児童生徒数は、平成30年度は52名（出現率1.87%）、令和元年度は51名（出現率1.86%）と少しだけ減少し、出現率が全国値（H30:1.69%）に近づきつつあります。今後も関係機関との連携を強化し、不登校問題の解消に努めていきます。

また、「適応指導教室（れすとぴあ）推進事業」では、通級生徒の学校への復帰は全員ではありませんが、小学生1名、中学生2名の在籍生徒が、学校復帰を果たしました。このことから、不登校児童生徒にとっては必要な事業であり、今後も継続して実施する必要があります。

「家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実」については、青少年健全育成事業として、青少年の健全育成のため、教育研究所や警察署・補導委員など関係機関と連携・協力しながら、子どもの安心・安全を守り、青少年のいじめや非行防止に

努めました。こうした取り組みは、地域人材の確保にも努めつつ、今後とも継続して実施していく必要があります。

家庭教育支援事業では、家庭教育支援の充実を図るため、他の課・係と連携し、子育て中の親子が繋がりを作ることができる連続講座を実施し、子育て家庭の孤立防止に努めました。また、子どもの基本的な生活習慣の確立や家庭環境の改善等を図るため、メディアに関する啓発活動（出前講座）を行いました。参加者は年々増加し、徐々にではありますが確実に効果は上がっています。今後も継続した取組を強化し家庭の教育力向上に努めていきます。

「男女共同参画教育の推進」については、地域社会における男女共同参画推進事業を柱に、家庭や地域などでの日常生活における固定的性別役割分担意識の解消に繋がるような取組を行うとともに、男女共同参画推進課と連携・協力し、男女共同参画についての説明や情報提供などの啓発に努めました。加えて嘉麻市男女共同参画推進条例の啓発冊子を活用した啓発活動などにも継続的に取り組んでいるところです。

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

生涯学習の実現を目指す社会教育の推進は、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」という、教育基本法第三条の“生涯学習の理念”に基づくものです。

「生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備」では、社会教育関係団体等育成事業として、生涯学習振興のための推進体制の構築を目指し、社会教育関係団体が自主運営・自主活動ができるよう支援するとともに、関係する団体間でも連携した活動や円滑な事業推進などの指導助言を行いました。課題としては、団体を構成する会員の高齢化と新規加入者の減少で活動が鈍化していることから魅力ある団体となるよう引き続きブラッシュアップの支援を行う必要があります。

「学習機会の提供及び学習成果の活用推進」では、ボランティア人材バンク事業として、地域活動の活性化と学校支援を行っていますが、登録者の高齢化などで年々事業規模が衰退しています。今後の課題としては生涯学習を実践する“学習機会の場”提供などの整備とともに新たな人材の掘り起こしなど継続した事業の展開が必要です。

また、青少年体験活動推進事業では、青少年の生活体験や自然体験などを通して、将来の地域リーダーの育成に取組ました。リーダー育成には中長期の計画的な取組が必要であり、市子ども会指導者連絡協議会等々と共同的に実施していく必要があります。

子どもたちの活字離れの抑止と表現力の向上を目的とする、わたしのエッセイ事業では、応募数が年々増加し、子どもたちの健全育成と学力向上に貢献しています。今後もこうした事業の展開と市民の学習機会の場の提供に努めます。

公立公民館・自治公民館連携強化推進事業では、平成30年3月に策定した嘉麻市公民館基本計画に基づき、将来に向けた公民館の在り方について協議を行い、公立公民館の方向性や公民館活動の活性化を図るための組織の再構築に取り組みました。令和元年度は、中央公民館の位置の変更（碓井庁舎への移転）と山田地区公民館下山田分館施設の下山田小学校白馬ホールへの移転の条例改正を行っております。なお、次年度以降は碓井地区、稲築地区の分館設置に向け協議していきます。

また、自治公民館施設の適正な維持管理として営繕費の補助や事業運営費の補助などの支援を行い、それぞれの地域において核となる人材や団体が、地域に密着した公民館活動が図れるよう努めております。こうした支援は、今後も継続的に実施していく必要があります。

公民館活動活性化推進事業では、小中学生を対象とした“ときめき学習”（体験活動と学習のプログラム）を市内全地区で実施し、各地区では各々特色を活かした地区公民館事業を展開しました。住民相互の交流と教養の向上、さらには健康の増進を図り、地域住民の“生きがいくつりと学びの場”を今後も提供していきます。

なお、課題としては、公民館利用者やサークル団体会員の高齢化が進んでおり、社会のニーズに合った魅力あるプログラムの提供などで新たな公民館利用者の拡大に取組ます。

「図書館の利用促進」では、嘉麻市にふさわしい図書館の在り方（将来像）について、その設置数及び運営方法について新たな視点に立って検討を行い、平成31年3月に「嘉麻市立図書館基本計画」を策定しました。図書館施設管理運営事業をはじめ、各種の図書館事業では、この計画に基づき、それぞれの地域の図書館を中心に充実した読書環境を継続的に提供できるよう計画的な施設整備と図書資料の収集を図りつつ、地域の図書館がより身近で利用しやすいものとなるよう、継続して取組を行っているところです。

しかしながら、図書館利用者は微減ではありますが減少傾向にあり、読書離れが進んでいる現状です。こうした課題解決に向け、子どもの読書活動推進に向けた取り組みや市民のニーズ把握などの読書活動推進事業の強化、そして図書ボランティアの養成と活動の支援を一層、充実させていく必要があります。

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

スポーツを通じて地域の主体的な活動を促進する「スポーツコミュニティ創造事業」では、スポーツ推進委員や地域活動指導員によるスポーツ教室等により延べ1,536人の市民に対して運動指導が実施できました。特に平成30年度から開始した「ふれあい・いきいきサロン」に対するスポーツ出前講座では、身近な公民館等でスポーツにふれあうことで、市民相互の交流を促進することができています。今後も、実施団体の増加を図るとともに、団体の自主的な活動へ繋げていくことが課題です。

荒木秀夫名誉教授のコオーディネーショントレーニングをすべての市民に普及することにより、人材育成、地域の活性化、さらには定住人口の増加を目指す「プロジェクトK事業」では、公立保育所全2カ所と私立保育園・幼稚園15園中9園、小学校全8校がトレーニングを導入し、乳幼児から小学校児童までは体系的な導入が図られています。令和元年度は指導書の作成を目指し、小学校の教員と意見交換会を実施しました。今後も、保育士や小学校教員が日常の指導現場でコオーディネーショントレーニングを実施できるよう指導者の育成を進めながら、乳幼児や小学校児童への事業の充実を図るとともに、中学生から高齢者、障がい者までの階層に対するトレーニングの普及が課題です。

また、スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致し、交流人口の増加と地域の活性化を目指す「スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業」では、交流人口が目標の12,000人を大きく超え13,043人となりました。今後も、施設の維持改善を図りながら有効活用を促進し、交流人口の増加を目指します。

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

「社会教育における人権・同和教育の推進及び支援」では、人権・同和教育推進事業として、行政区、各種団体等や事業主を対象とした研修会や、各地区公民館と連携して市民を対象とした研修会を、年間を通して実施しました。

また、人権に対する関心を普段から高めていくため、公民館事業の「ときめき学習」等で子ども達への人権研修を実施し、啓発と学ぶ機会の充実を図りました。

人権・同和教育を推進する少年団体及び関係団体の育成事業では、人権問題について正しい認識と理解を深めるため定期的な講座等の開催など、行政・学校・団体との連携による取組を強化し、継続的に事業を推進する必要があります。今後も、部落問題をはじめとする様々な人権問題について、学習機会の提供と支援に努めます。

■主要施策7 市民文化の創造

「美術に関する創造的活動の推進」では、文化芸術活動推進事業で個人や団体、児童生徒による12の作品展で活用され、様々な作品鑑賞の場となりました。地域向けの取り組みとして公民館事業の「ときめき学習」や高齢者介護事業の「オレンジサロン」などに出向き、他部局との連携も図れ、創作することの楽しさを体感し美術館のPRにも繋がっています。今後も様々な作品の展示活動や地域での創作体験活動などと連携し事業の推進に努めます。

美術館運営管理事業では、今後とも快適な環境下で、自主的、主体的に作品の創作、展示活動が行われるよう、適正な管理・運営を行い、入館者の増大に努める必要があります。また収蔵作品についても今後、活用が図れるよう適切な保存管理を行う必要があります。また、美術館の琴平公園についても安らぎの場、憩いの場、交流の場などとして親しまれるよう維持管理に努めていく必要があります。

企画展事業では、「花村えい子と漫画」展を開催。県内外から幅広い年齢層の方々が来館され、貴重な原画などを楽しみ、花村えい子の描いた少女群と織田廣喜の少女作品（常設展）の回遊性を図ることが出来ました。また「アートキッズ展」や「春のコレクション展」では、子どもと大人の視点、感覚で選んだ織田廣喜を中心にした収蔵作品を活用した企画展を開催しました。令和元年度は、5つの企画展を開催できましたが目標の入館者数には達することが出来ず、今後の課題としてPRなど周知方法の工夫が必要です。

美術教育普及事業では、美術館ボランティアのご協力もあり、アートキッズ事業は好評で、保護者からは子どもたちの感受性の変化などのご意見が寄せられています。教養講座では、“織田廣喜”の生きた時代背景に触れながら展示作品を鑑賞、体感し、織田廣喜という画伯について深く学ぶことが出来ています。今後も実技や教養講座など学びの機会の提供に努めます。

「文化財の保護・継承・活用」については、郷土の歴史文化を守る事業として、文化財の調査研究や指定文化財の維持管理等を行っています。遅延している「マスタープラン」（文化財の保護と活用方針）については、今一度内容を精査し、可及的速やかに着手できるよう鋭意努力する必要があります。

郷土の歴史文化を伝える事業及び郷土の歴史文化拠点施設活用事業では、学習支援や講師派遣に多くの依頼がありました。今後は、他部署等々との連携をさらに充実させ、立ち上がった歴史ボランティアサークルの一層の充実と育成に努め、文化財の保護・継承・活用にかかる適正な施設の維持管理に努めます。

(3) おわりに

令和元年度は「第4次教育アクションプラン」実施期間の2年目にあたり、本年度(令和2年度)が、最終年度となります。

点検評価委員の皆様からいただきましたご指摘等を各事業の最終数値目標を達成するための取組に反映し、本市の教育行政の更なる発展に役立てていきたいと思いをします。

最後に、点検評価にご出席いただき、ご尽力くださいました委員の皆様にご心よりお礼を申し上げ、点検・評価報告書のまとめとさせていただきます。

《資料》

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成27年嘉麻市教育委員会要綱第5号]

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

第26条及び嘉麻市教育基本条例（平成22年嘉麻市条例第16号。以下「条例」という。）

第7条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第2条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行う。

(1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。

(2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第3条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員（以下「評価委員」という。）を設置する。

3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第4条 評価委員は、10人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 嘉麻市議会議員

(2) 嘉麻市PTA連合会委員

(3) 嘉麻市社会教育委員

(4) 嘉麻市公民館運営審議会委員

(5) 嘉麻市立図書館協議会委員

(6) 嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員

(7) 嘉麻市スポーツ推進委員

(8) 嘉麻市文化財保護審議会委員

(9) その他教育委員会が適当と認める者

(公表の方法)

第5条 教育委員会は、条例第7条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
- (2) 報道機関に提供
- (3) 教育委員会での閲覧

(庶務)

第6条 点検評価の実施に関する庶務は、学校教育課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年10月16日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から適用する。

令和２年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿

(敬称略)

	団 体 名	氏 名
1	嘉麻市議会	出水 貴之
2	嘉麻市ＰＴＡ連合会	塩川 智津子
3	嘉麻市社会教育委員の会議	鈴木 淑文
4	嘉麻市公民館運営審議会	春口 勇介
5	嘉麻市立図書館協議会	松岡 瞳子
6	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会	山本 美代子
7	嘉麻市スポーツ推進委員	山方 国和
8	嘉麻市文化財保護審議会	氷室 崇元

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書

(令和元年度事業分)

発 行 嘉麻市教育委員会 教育総務課
〒820-0392 福岡県嘉麻市大隈町7 3 3 番地
T E L 0948-57-3198

発行年月 令和2年8月